振興調整費

平成２２年度科学技術振興調整費　女性研究者支援モデル育成

大阪府立大学「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」

平成２２年度　事業報告書

平成２３年３月

元気！活き生き
女性研究者・公立大学モデル

公立大学法人大阪府立大学　女性研究者支援センター

ごあいさつ

大阪府立大学　理事長・学長　奥野武俊

大阪府立大学にとって、女性研究者を支援する体制を整えることは長年の課題でしたが、この度「元気！活き活き女性研究者・公立モデル」プログラムが採択され、そのための具体的な体制作りなどが加速されることになりました。このために関わってくださっている皆様と、このプログラムを様々な形で支え、協力してくださっている方々に、まず感謝申し上げます。

もちろん、女性研究者を支援するために最も大切なことは、このような問題に対する意識改革だと思うのですが、それを促すためには、具体的なシステムの改革が必要です。今回のプログラムの中には、様々な取り組みが提案されており、それらを実行していく中で、女性研究者を目指す学生や、それを励ましながら協力する女性・男性の研究者の意識を変え、共に作り上げてよいシステムを育てていけるものと思います。このような制度を含むシステム改革に必要なキーワードは「思いやり」だと言われます。システム工学では、そのシステムが誰のために、どのような問題を解決するために必要なのかを考える時、必ず必要になる視点として教えられます。この度も、関係する方がお互いに「思いやり」の視点で当たっていただきたいと思っています。中でも、この機会に「つばさ保育園」が大学のほぼ中央位置に開設されることは、多くの方が集まってくる場所であるだけに、大学関係者の目に触れることになりますから、多くの方がこの問題を身近な事として感じていただける契機になるのではないかと期待しています。

私たちの取り組みが進展して、女性研究者に関する問題が特別なことではなく、私たちの大学にとって、ごく普通のこととして受け止められるようになることを心から願っています。

目　次

ごあいさつ　　大阪府立大学　理事長・学長　奥野武俊

総　　括　　女性研究者支援センター長　　田間泰子　　1

Ⅰ．事業概要と今年度の計画

事業概要　　9

平成２２年度　事業計画　　１５

Ⅱ．事業実施報告

事業実施一覧（時系列）　　１７

１．女性研究者支援のための環境整備　　１９

２．全学的意識改革事業　　３２

３．キャリアパスの構築と裾野拡大　　３７

４．サポート基盤の整備　　４７

５．保育室設置・運営　　４８

６．インセンティブ制度　　４９

７．地域連携　　５２

８．その他　　５２

９．平成２２年度学内アンケート結果　　５３

Ⅲ．外部評価

外部評価委員会　総評　　７７

Ⅳ．要綱・要項・規程・要領　　７９

総括

女性研究者支援センター長　田間泰子

（１）　女性研究者支援のための環境整備について

①全学的な運営体制とセンター

本学では、非常に迅速に体制作りを行い、事業展開を行ったと考える。具体的には、センター運営の中心となるコーディネーターの雇用が６月１６日と早く、そのわずか２週間後には第一回のサイエンスカフェを実施、他方で７月には規程を整えてステアリング委員会と運営委員会の開催、事務員雇用、理系女性研究者へのヒアリング開始等を進めたことである。キックオフ・シンポジウムも１１月に盛況のうちに終えた。このときには学生・院生の参加が少なく課題として残ったものの、事後アンケートからは職員の参加が多く好評であった。事業を支える大学側にとって良い周知啓発の機会となったと考える。

②事業についての全学的周知連携と全学的意識改革について

１年度目には、センター立ち上げとともに、この事業を展開することについて学内周知が必須であるが、地道な努力をしたことにより評価できる側面と、不十分であった側面がある。前者については、たとえばヒアリング対象となった研究者からの協力申し出により、７月末と１０月第一週（後期授業開始時期）に、理系の大学院および学部授業を利用して、コーディネーターが合計１３回の説明を行ったことや、パンフレットやニューズレターの配布、ポスター掲示等が挙げられる。他方で、後者つまり不十分だったのは、センターのＨＰ立ち上げが１０月中旬となって遅れたことや、大学のＨＰからセンターＨＰまで辿り着けないデザインとなっていることなどが挙げられる。特に大学ＨＰとのリンクについては、この２月に総務課広報担当者によって大学ＨＰが刷新されたときに、それまで第１面にあったセンターのフラグが削除され、センターのスタッフ自身も大学ＨＰから検索してヒットさせられない状況が生じた。担当課には申し入れたものの、第１面のデザインは全学的な理由から変更不可能と言われており、センターとして対策を検討中である。

また、規程改訂や広報の必要から、さまざまな事務部署と連絡を取り合い協力していただく必要が生じたため、各部局事務室（本学では「支援室」）やエクステンションセンター、入試、人事、学務等の事務担当部署との連携を行い、その結果として２年度目にはより円滑に、大学の定期的な業務にその一部として支援センターの事業を組み入れてもらうことが予想できる。ただし、キャリアサポートセンターと連携する余裕がなく年度終了した。このセンターとの連携はキャリアパス構築に非常に重要であるから、２年度目の重要課題としたい。また、昨年４月のヒアリングにおいては、本学が採択されている科学技術振興調整費の一つ「産学連携Ｄプログラム」との連携も目標としていたが、これも次年度の課題である。

なお、年度末に企画したＷＥＢアンケートは３６票しか回答が得られず、急遽、２月に紙ベースで教職員および院生向けの調査を追加した。３６票と少数であった大きな原因は、回答者を学内者で１人一回のみに限定するためのセキュリティデザインのせいではないかと考えられる。来年度以降の実施方法については十分に検討が必要である。もっとも、紙ベースでは１６００票の配布に対して８０５票が回収されたことが高く評価できる。その概要は来年度にセンターＨＰに公開し、また運営委員会内部で細かに分析して事業改善に役立てる予定である。本学の支援事業と支援センターについては、「よく知っている」「まあまあ知っている」を合わせて、事業について２２８名、センターについて３６７名が知っていることが分かった。初年度としては学内周知はそれなりに達成されたように思われる。その年度最後の後押しをするものとして、学内行事の時などを利用して、センター事業を刷り込んだクリアファイルやバッジ、シール等を配布し、周知を促進することとした。

このアンケート調査では、そのほかに本学の「多様な人材活用推進の基本方針」、政府の「第３期科学技術基本計画」「第３次男女共同参画基本計画」「女性研究者支援システム改革」、国連の「女性差別撤廃条約」等の周知度も尋ねた。「よく知っている」と「まあまあ知っている」をあわせると、１００名弱から２００名強という状況であるが、とりわけ科学技術基本計画とシステム改革事業は周知度が低く、回答者の約９割が「知らない」との結果であった。本事業の基盤となる重要な政策であることから、来年度に一層の周知促進が必要と考えられる。

③相談窓口

センターによる相談窓口と健康相談窓口については、１０月から開設したものの利用件数が少ない。３月運営委員会で改善について意見交換し、４月以降に広報を進めるとともに少しプログラムを変えて実施しつつ検討を続けることとなった。

④ロールモデルバンク

ロールモデルバンクの構築については、大阪女子大学同窓会の斐文会、およびシャープ等から、計２２名の登録を得た。それ以外にロールモデルを増やしていく方法については、地域連携の面では実施するに到らず来年度の課題である。大阪府男女共同参画・ＮＰＯ課が有するロールモデルバンクについては、連携をお願いしたが、理系の女性が含まれていないとの回答のため、連携できなかった。その他に本学の卒業生をバンクに登録してもらう方法については３月運営委員会で意見交換し、新しい提案を試してみることになった。ロールモデルになっていただいた方々については、裾野拡大事業のアドバイザー雇用、オープンキャンパスでのＴＡ等、少しずつではあるが活躍の機会を増やしつつある。来年度には、さらにバンクを充実させ、さまざまな事業展開を考えていきたい。

⑤研究支援員の配置と在宅勤務支援

支援員配置については、申請当初の予想を上回る６名から要望があり、的確に女性研究者のニーズに応えることができた。また４月からの支援員については１月に学内募集を行い、子どもが該当年齢を外れる一例以外は、今年度の申請者が継続して申請し、審査会で承認された。この事業が非常に有効に活用されている証だと考える。カメラ付のパソコン貸与による在宅勤務支援は当初の予定どおりに２名の研究者から要望があり、有効活用された。学内からは、介護支援や、育児期の男性研究者支援、自然科学系の女性研究者への支援の要望が出され続けているが、これらは全て対象外となるため、大学としては要望に応えることが困難なままである。

⑥メンター制度

申請前の２月に行なった学内アンケート調査では、少数ながら、若手女性研究者と女子院生にメンター制度へのニーズがあった。しかし、学内で理系女性研究者が非常に少ないという人数の問題や、専門性等の問題があり、なかなか実施に取組むことができなかった。理系女性研究者が非常に少数であるために、彼女たちが事あるごとに委員等となって負担が大きいことが挙げられる。申請時に、そのための対策として考えていたのは、企業内の女性研究者をメンターとして活用することであるが、これは初年度のセンター立ち上げだけで時間が尽きたため、来年度の課題となる。ただ、今年度にセミナー等の講師として企業内の女性ロールモデルを依頼したが、非常に多忙の方々が多かった。どれほどメンターになっていただけるかは、未知数と考えるべきかもしれない。現在は、他大学の例を調べ、本学で有効な形態を探っているところである。

なお、キックオフ・シンポジウムをきっかけにできた女性研究者懇話会に院生が加わることにより、メンター的な関係性がある程度可能であるように観察されている。来年度はＳＮＳを構築する予定なので、それらを利用して、人材不足でマッチングの難しいメンター制度に拘らず、実質的に有効な支援が実現できればと期待している。

（２）キャリアパスの構築と裾野拡大

① キャリアパス構築

キャリアパス構築の方法としては、第一にメンター制度（（１）⑥で既述）、第二に女性研究者によるセミナーや少人数のサイエンスカフェ、第三にキャリアサポートセンターとの連携による事業（（１）②で既述）、第四に大学自主経費による表彰制度（下記（３）②）等を予定していた。

第二のセミナーについては、本学出身者による７月の講演会に学部生・院生の参加が多かったことや、サイエンスカフェを理学研究科と生命環境科学研究科（りんくうキャンパス）で実施した。これらについては、講師が集中講義で来学していることを利用したり、講師の本務の都合があったりなどから、積算見積もりよりも講師料が少なくて実施できた。しかし、開催のより簡単なサイエンスカフェを工学研究科と生命環境科学研究科の中百舌鳥キャンパスで一度も開催できなかった。参加者への事後アンケートは好評なので、これを次年度にはどの研究科においても複数回開催することが課題である。セミナーについても同様のことが言える。来年度には、理系部局の運営委員を２人ずつに増員することを決めたので、これらのキャリアパス構築事業についても、理系運営委員が中心となり、充実できることが予測される。

② 裾野拡大について

裾野拡大としては、第一に学内での「子どもサイエンスキャンパス」、第二にオープンキャンパスでの理系女子向けのイベントを予定していた。これらについては、予定通りに行うことができ、いずれも女子大学院生を雇用して活躍してもらい、参加人数も多く、初年度としては成功したと考える。

第一の子どもサイエンスキャンパスの実施においては、学内のエクステンションセンターおよびボランティアセンターと協力することができた。課題としては、第一に、エクステンションセンターが行っている多くの子ども向け理系講座があるが、それらとの連携を今一つ確実な形にできなかったことである。エクステンションセンターは非常に協力的であったが、各理系部局が出してくるメニューの事務局をして多忙になっているという事情があり、大学としての統一方針に欠けている感があった。来年度には、エクステンションセンターが改組されるので、センター同士の連携という形を明確に作ることが課題となる。また、今年度は、全て、学内での行事を利用して実施した。申請当初の予定としても、また３月運営委員会で出された意見によっても、次年度には学外の場に出て行き、院生や研究者がロールモデルになって理系教育を支援することが必要である。

第二のオープンキャンパスは、本学初の理系女子コーナーということで手探りで行った。また、生命環境科学研究科は既に女子学生が多いという理由から、オープンキャンパスには参加してもらえなかった。しかし、入試広報委員会と入試課の協力が円滑に得られて、保護者を含めて２日間に１３０名参加という盛況となった。次年度には、より充実した内容にできるよう、ＴＡとなる院生を中心にして取組んでいきたい。

興味深かったことが３点ある。一つめは、雇用した女子院生とともに男子院生が参加してきたことである。彼らは関心をもって会場に来ており、ボランティアで協力してくれた。ここから一つ考えたのは、次年度には理系女子院生のグループ化とともに、彼らをサポーターとして組織化できないかということである。これは、この３月から４月にかけて理系女子院生のグループ化を行う予定なので、そのあとで男女学部生も含めた組織として提案してみたい。二つめは、保護者である。近年の入試関連行事には、保護者が来ることが非常に多い。今年度は中高生女子のみを対象と考えており、実際には保護者が同じ室内で手持ち無沙汰であったため、急遽１人の院生に保護者席に行ってもらい好評であった。次年度のオープンキャンパスでは、保護者と話し合う理系女子院生を予め確保したいと考える。三つめは、この理系女子コーナーの時に文系の院生も補助として参加していたので、文理院生の交流ができたことである。日常においては、理系の中だけでも交流がなかなか難しいが、このような事業をともに行うことによって学内の院生ネットワークを作ることができると感じた。本センターの事業目的外なので取組む予定はないが、大学の活性化には役立つと考える。

（３）大学の自主経費による取組みについて

①保育室の設置

学内保育施設の設置は、申請前の２月に実施した学内アンケートで要望が非常に多かった項目である。申請当時には既に設立準備を始めており、採択後には設置準備委員会を作って活動を開始した。規程関係の新設、委託業者の選定、名称の学内公募（懸賞付）、通常保育と一時保育の募集と審査、利用者への説明会等、総合調整室が主となり、女性研究者支援センター長が委員会副委員長、本事業の運営委員２名が委員という形で加わって実施した。来年度４月１日開設は予定どおり行われ、４月３日には堺市長を迎えて開所式、支援センターからのオープニングイベントとして、ワークライフバランスに関する講演会を開所式に連続して開催する予定である。保育施設の運営は大学自主経費のため、初めて施設を開設する公立大学としては非常に負担が多い事業となるが、本学ではこれに積極的に取組んでいることが評価できる。

この２月に行った学内アンケートでは、保育園についての周知度は他項目に比べて１位で、回答者８０５人のうち５７１人（８９．８％）が「よく知っている」（１４６人）「まあまあ知っている」（４２５人）と回答した。大学としての取組みの姿勢が、このような形で注目をよく集めていると言える。実際の来年度利用申込者は少数であるが、これは本学に保育施設がないことを前提として生活してきた結果であるから、今後は利用者が増えることが予想される。

なお、開設にあたっては、アンケートでもヒアリングにおいても、土曜日の開室、病児保育と病後児保育、学童保育への要望が多かった。しかし、予算規模の関係と、また本学に医学部がないことから、それらへの対応はできていない。次年度以降に間接経費によってバウチャーを発行する等の改善策を考えていたが、事業仕分けにより間接経費がなくなったため、その対応が不可能になっている。要望が多いだけに、非常に残念である。

②インセンティブ制度

インセンティブとして、大学の自主経費による院生への旅費等の支援（「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰制度）を実施した。この支援経費は直接経費から認められていないため、大学による自主的な取組みが問われる事業である。本学でも、実施に当たっては専門分野の異なる院生を評価することの難しさや、応募する院生が存在するのかどうかなど、大学執行部により疑問が出されていた。しかし、特に理系の運営委員の尽力によって実現してみると、５人の表彰枠に対して４人のみの応募であったものの、その英語での発表内容はいずれも優れた水準であった。また、第一次審査は書面であるが第二次審査は公開プレゼンテーションであったことから、男女に関わらず院生・学部生や教員が参加しており、世界に優れた研究者を送ることを目標にしている本学として、素晴らしい機会となった。さらに、審査とは別にプレゼンテーション後の「講評」として、本学の若手女性研究者３人がコメントを述べたが、それらも丁寧で的確な内容であり、それがはじめての顔合わせとなって院生と研究者のネットワークが形成されるなど、理系女性が少ない本学ならではの効果が見られた。これらから、さまざまな意味において、この表彰制度は非常に有効だったと評価され、次年度以降には評価方法の改善等をおこない、新学期早々に第２回開催の準備にとりかかる予定である。

また、このインセンティブ制度とともに、最終年度には、府内企業の女性研究者と本学の女性研究者を含めて、「大阪元気！活き生き女性研究者賞」を予定している。今年度に実施した院生への表彰制度の定着と、次年度に予定している地域連携の成果を、最終年度の表彰制度に活かせるように取組んでいきたい。

（４）地域貢献

①行政との連携

申請時に、大阪府庁の関連部署等と、本学執行部のある堺市市長から、賛同をいただいた。また、キックオフ・シンポジウムには府知事と堺市市長からメッセージをいただき、これらは都合により大阪府府民生活部部長（大学課および男女共同参画・ＮＰＯ課の所轄部局）と堺市副市長に代読していただいた。キックオフ・シンポジウムには、大阪府と堺市から、後援名義もいただいている。９月には、支援センター長の田間が大阪府男女共同参画審議会委員であることから、審議会で本学の取組みを紹介した。さらに、大阪府男女共同参画・ＮＰＯ課が推進している「男女いきいき・元気宣言企業」への登録を進めており、この３月に最後のヒアリングを終えて認可される予定であり、また来年度の担当課の施策に本学の取組みを配慮していただけるとのことで、３月７日に打合せを行った。

このように連携を進めている一方で、連携が難しい点も存在する。一つは、大阪府の男女共同参画政策が予算的には厳しい状況にあり、これまで府内でさまざまな事業を推進してきた（財）大阪府男女共同参画推進財団が経済的自立化を余儀なくされたため、利益が発生してはいけない本事業との連携が困難になっていることである。

もう一つは、行政的な事務体制の問題かもしれないが、キックオフ・シンポジウムの後援名義をもらうこと一つについても、非常に時間がかかり書類が多い手続きとなった。府立大学による国の振興調整費事業に対して、密接な関係にあるはずの大阪府が、一市民団体が後援名義を要望するのと変わらない対応となるのであれば、今後の行政との連携は事務的に非常に煩瑣であることが推測され、事業の円滑な実施に大きな支障となるものである。このような事業費が管轄する自治体内に交付されたときには、地方自治体の行政府もその価値を認識し、有効な連携ができるようになることを切に望む。

②同窓会との連携

本学には、大学全体の同窓会を統括する大阪府立大学校友会と旧大阪府立大学内の地域・分野別同窓会、大阪女子大学斐文会、大阪府立看護大学白鳥会がある。校友会と白鳥会にはキックオフ・シンポジウムをきっかけに本事業を紹介し、会長の出席を得て連携を依頼した。具体的な連携の第一歩はロールモデル発掘と考えられるが、これは次年度の課題となっている。斐文会については、戦前からの理系女子教育の伝統があり、戦後に女性研究者も輩出していることから、申請当初から連携を呼びかけ、ロールモデルバンクに２１名の登録をいただいて裾野拡大事業のアドバイザーやＴＡとして活躍していただくとともに、文系会員にも研究支援員第一号になっていただくことができた。また、キックオフ・シンポジウムの「ロールモデル講演」の講師は、大阪女子大学卒である。そのほか、本事業については、昨年１１月発行の会報に１頁の紹介記事、今年５月発行予定の会報にも二段の記事スペースをいただき、本事業を紹介して連携を強めている。今後は、ロールモデル登録者を中心に、さらに連携を進めていく予定である。

③企業との連携

企業との連携は、今年度の事業展開のなかで最も遅れている。唯一、大阪府男女共同参画審議会委員であるシャープ人事本部と連携でき、ロールモデルの呼びかけができたのみである。遅れてしまった原因は、初年度ならではの基盤整備のためではあるが、そのほかに、産学連携プログラムと連携できなかったことと、キャリアサポートセンターと連携できなかったことが挙げられる。これは次年度に重点的に取組む予定である。

また次年度には、西日本ダイバーシティ研究会や、大阪府の男女共同参画・ＮＰＯ課が企画している産学官連携組織（通称「プラットフォーム」）、また本学の理系女性研究者がつながりを持っている、理系企業の女性のネットワーク、そして本学同窓会などの情報をとりまとめ、企業と本学の交流の場を設けるなどして連携体制を整えたい。

（５）その他

①平成２４年度に予定されている改組と、事業終了後までの取組みについて

平成２４年度には、全学が４学域の「理系強化」した大学に改組される予定である。また、事務組織は平成２３年度から改組される。運営委員体制その他、本事業もその改組に対応しつつ、事業の終了する平成２４年度末までに、大学の通常業務の一部にこの事業内容を組み込む努力をしなければならない。そこで、今年度には基盤の確立を行ったが、次年度には地域連携と、今年度に不十分であった工学研究科および生命環境科学研究科の中百舌鳥キャンパスに関して事業の浸透を強化し、教育研究組織が改組される最終年度に、それ以後の全学的な推進体制を整えて、平成２５年度以降の女性研究者支援体制を確立する予定である。

②文部科学省による本事業で唯一採択されている公立総合大学としての問題について

今年度、センタースタッフは、全てのことが初めてであるために手探りで事業を進めたが、そのときに非常に役立ったのは、先行する他大学との情報交換であった。１０月の京都大学での会議や、それらを契機にしての他大学へのヒアリングは、学内で新しいシステムを作っていくときの大変さに日々直面しているスタッフを勇気づけるものである。

しかし、ここに一つの困難がある。本学は、公立大学として、京都府立医科大学とともに初めて採択された大学である。しかも、公立総合大学としては、全国で唯一の採択校となる。これは大変素晴らしいことであるが、事業を実施してみると、それが困難の原因ともなることが分かってきたのである。すなわち、公立大学ならではの事情がもたらす困難があるのだが、他に例がないために有効な情報交換や連携が難しい面があるということである。

公立大学の前例がないために、それに関わる困難について他大学と共有することができない。これは、個別の事業実施における工夫の水準ではなく（これは他大学との情報交換が有効である）、大学のシステムを改革する点に関わる困難であるため、より根深い。また今後、他の公立大学が事業を展開しようとする際にも直面するかもしれない問題とも考えられる。

たとえば、大学経費の問題を挙げることができる。国立大学の場合には国からの運営交付金、私学の場合には理事会等が決定する経費と私学助成金によって、本事業のような国の政策を実施するよう促すことができる。しかし、公立大学の場合には、国から地方自治体にその運営交付金も見込んで地方交付税交付金が下されるが、そのうちのどれほどを地方自治体が公立大学の運営交付金にするかは、自治体の裁量に任されている。そのために、大阪府のように財政状態の厳しい自治体においては、公立大学は地方交付税交付金の一つの財源であると同時に負担ともなっており、一昨年度に府からの運営交付金が１０％カットされたというようなことが、いつまた起きるとも限らないのである。

また、他の例としては、事務職員の体制を挙げることができる。大阪府立大学は法人化しているが、職員は大学プロパーがほとんどおらず、府からの出向である。これは、数年ごとに府の他の部局（大学教育と全く関係のない部局を含めて）とのあいだで職員が異動する可能性を意味し、その結果、大学として安定した事務体制を維持することが難しくなっていると考えられる。なぜなら、このような異動が意味するところは、大学の教育目標や理念の実現のために、どのような教育研究とそれを可能にする事務的経営的体制が必要かということを継続して考え、学内の諸制度を長いタイムスパンで改良していく立場に、現場にいる事務職員の誰もならないということだからである。府立大学であるからには、大阪府との連携が非常に重要ではあるが、また困難もある。本学では、この間、急激な全学的改組に取組む中で、理事長のもと、強いリーダーシップによって改革を推進しており、来年度以後にはプロパーの事務職員を増やす予定であるが、これはようやく端緒についたという段階である。安定した事務体制をもって経営方針を実施していく私立大学や、国立大学と、この点が非常に異なっているように思われる。（もっとも、公立大学でも法人化した大学とそうではない大学があるので、それらの間にはさらに重要な違いがあるかもしれない。）

いずれにせよ、このような公立大学ならではの状況は、国立大学や私立大学から理解されていないし、本事業を推進する文部科学省もどれほど理解しているのか判明しがたい。国の政策

として公立大学による高等教育を維持する方針であるなら、地方自治体の状況に大きく影響されやすい公立大学に対して、何らかの実効性のある配慮が行われる必要があるし、それがないままでは公立大学に本事業が十分に普及することは難しいように思われる。

既に国立大学が採択されている地方において公立大学がそのネットワークに入ることは、より現実的な方策かもしれない。本学の場合には、それは困難である。なぜなら、関西・近畿圏の採択校が、非常に先行している京都大学・大阪大学・神戸大学の三校と、今年度に採択された本学、京都府立医科大学、関西学院大学の三校のみとなっており、先行する三校にはネットワークやリーダーシップがない状態だからである。この状況は、後発の近畿圏の大学にとってはなかなか厳しいと判断せざるをえない。

以上、公立大学としての困難な側面を強調してきたが、公立大学の果たす役割というものもあると考える。一つは、公立の高等教育機関として、小中高などの公立教育機関や、そこに子どもを通わせる保護者府民に対して、科学技術の発展や男女共同参画の推進など国の教育政策に関するロールモデル的な拠点となることである。もう一つは、事務職員に関わるが、法人化したといえども一定の割合で大阪府と事務職員を共有するのであれば、府職員にとって、本学は国の政策を積極的に取り入れた取組みを体験させることになり、国の政策が地方行政に普及していくための有効な拠点となると言える。これらは、国の人材育成事業に積極的に申請し採択されている公立の高等教育機関であるからこそ可能なことであり、本学の教職員の積極的な取組みがまさに地域に活かされると言うことができる。もちろん、それ以外に、開かれた大学をめざす本学としては、従来からも取組んできたことであるが公開講座や府民向けのセミナー等を利用して、本事業に関わり地域のリーダーシップを発揮していくことは言うまでもない。

以上

Ⅰ．事業概要と今年度の計画

平成 22 年度科学技術振興調整費　女性研究者支援モデル育成
「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」
実施予定期間：平成２２年度～平成２４年度

総括責任者：奥野　武俊（公立大学法人大阪府立大学　理事長）

【概要】

理系強化・文理融合型大学への改革を機に、理事長を長とするステアリング委員会の下、女性研究者支援センターを設立し全学的に理系女性研究者支援に取り組む。環境整備として相談窓口・メンター制度・保育室を開設し、勤務時間配慮や研究支援員配置等の支援環境を整える。意識改革はカリキュラムや講演会等により全学的に行う。キャリアパス構築のためロールモデル・バンクを構築し、大阪府の施策とも連携させ地域貢献を図るとともに理系選択女子の裾野拡大にも活用する。情報基盤整備にはＩＴ機器を活用する。以上により、全学的に環境と意識を変革し、全学で理系女性研究者を支える体制を整え、公立大学として地域貢献と府の施策活性化も図る。

１．機関の現状

ａ．女性研究者に関する現状及び今後の見通し

本学は、現在、工学、生命環境科学、理学、経済学、人間社会学、看護学及び総合リハビリテーション学の７学部７研究科を擁する総合大学であり、すべての研究科において博士後期課程まで整備され、「高度研究型大学～世界に翔（はばた）く地域の信頼拠点～」を基本理念に掲げ、実学に重心を置いた教育研究体制の充実・強化を図っている。総勢、学部生は 6,255 名、大学院生１,512 名（平成 21 年 5 月１日）と大学院重点型大学である。

平成 18 年度～平成 20 年度の 3 年間における学士課程及び大学院博士前期課程・後期課程を卒業・修了した女子学生の比率は、それぞれ 38.7%（学士課程）及び 26.1%（博士前期課程）、27.7%（博士後期課程）であり、ほぼ国立大学並みの比率である（国立大学平均は 37.4%及び 26.6%、24.6%『国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第 5 回追跡調査報告書』）。しかし、看護医療系や人文社会学系を卒業（修了）した女子学生の比率は高比率であるが、理系３学部・研究科（工学、生命環境科学、理学）では、いずれも 10%台と低い。

次に、この３年間に本学に在職・新規採用された女性研究者の在職比率及び採用比率をみてみると、いずれの比率も看護医療系分野においてきわめて高率であり、理系分野における女性研究者の在職比率は 6%（27 名）で、新規採用された理系女性研究者は１名のみである。さらに、理系分野については人数・比率ともに少ないだけでなく、職位における偏りがある。特に教授比率は、2%未満（平成 21 年度）と非常に低い。以上から、理系女性研究者の増加と職位の向上が今後の大きな課題であるといえる。

その一方で、新規採用の人数は年度により大きな変動があるが、平成 21 年度に在職する女性研究者比率は約 19%（140 名）で、平成 21 年度の採用 25 名のうち、女性は 10 名で比率は 40%に達している。また、全学の助教・助手における女性研究者比率は 26%（40 名）以上に達しており、また過去 3 年間の採用女性研究者の平均年齢は 39 歳と若い。以上から、本学の女性研究者において仕事・研究と家族責任の両立支援の必要性が高いと推測される。

現在、本学では、次期中期目標に向けて大幅な大学改革に着手しており、「選択と集中による大学改革」の基本方針の下、理系強化・文理融合への移行が機関決定している。そこでこの改革を好機として、

全学的な意識改革と、大阪府の施策と連携した地域貢献に取り組み、その基盤のうえに、特に理系女性研究者への全学的な支援体制を確立することを目指す。

b．女性研究者支援に関する取り組み状況

（1）「大阪府立大学における多様な人材活用推進の基本方針」

本学は、公立大学として地域に信頼される知の拠点となるべき基本理念「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」の実現に向けて「多様」「融合」「国際」の 3 つの視点の重要性を取り上げている。

これらの視点に基づき、ダイバーシティ（多様性）の実現こそが今後の教育研究の活力の源泉であるとの認識の下、「大阪府立大学における多様な人材活用推進の基本方針」を策定している。

基本方針では、特に、男女共同参画を推進するとともに、女性研究者や若手研究者、外国人研究者を含めた多様な人材がいきいきと活躍できる環境を構築するため、今後、本学構成員の意識改革、環境の整備、支援相談システムの構築などを推進することとしている。本事業は、この基本方針のもとで実施される初めての取り組みとして実施する。

（2）「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラム

本学は、平成 20 年度文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進事業」に「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラム（平成 20 年度～24 年度）が採択されている。本拠点は、テニュア・トラック教員 13 名の採用にあたり、女性研究者の優先枠 20%を設けることをミッションステートメントに明確に述べており、現時点で優先枠を超える 4 名の女性研究者の採用を行っている。この実績のほか、本拠点雇用の女性研究者に対する下記の支援策を策定・実施している。

1） 出産等の事由による任用期間延長制度（通常の 5 年から最長で 6 年まで延長できる制度）

2） 育児のための保育施設サービスの提供（近隣保育施設の利用斡旋など）

3） 女性研究者の相談窓口の設置（様々な相談に応じる）

4） 学内女性研究者を含むメンター制度（専任特認教授、学内兼担教員）

5） 乳幼児（3 歳未満）がいる場合、その年齢に応じた支援（研究活動を補助する支援員の配置、複数担当者体制など授業担当への配慮）

（3）女性研究者支援ワーキンググループ

平成 22 年 1 月に総務担当理事の下に女性研究者支援ワーキンググループを立ち上げ、人間社会学研究科付置の女性学研究センターと連携し、学内保育室設置等のニーズ調査を行った。対象は全学の教職員および大学院生・研究員 2,698 人とし、1,092 人の回答を得た（うち、教員 26.2%、院生・研究員 40.7%、女性教員・院生・研究員 135 人）。教員・院生・研究員（以下、併せて「研究者」とする）の回答の傾向は事務職員のそれと類似し、「あれば良いと思う支援」および「あれば利用したい支援」として、勤務時間の配慮、仕事・研究と家族責任の両立支援のための相談窓口、在宅勤務・補助員雇用と、学内保育に希望が多いことが明らかとなった。

この調査では回答者には男性が多いことから、女性だけでなく多くの男性研究者もそれらの支援を希望していることが図らずも判明した。また、性別による差をみたところ、女性院生・研究員が男性に比してメンター制度を明らかに多く希望していることが判明した。以上から、全学的に男女研究者および職員に対する支援体制を整えつつ、その基盤のうえに理系女性研究者への支援を展開することが、大学全体で彼女たちを支え世界に翔く理系女性研究者モデルを育成することにつながると考える。

（4）人間社会学研究科女性学研究センター

女性学研究センターは、平成 8 年に大阪女子大学に設置され平成 17 年に大阪府立大学に統合された現在も、大阪府男女共同参画推進条例にもとづき研究機関として男女共同参画を推進する役割を与えられている。学部・大学院における女性学・ジェンダー論教育を担当し、講演会・セミナーや研究者対象のコロキウムを行い紀要等を刊行するとともに、海外の諸大学との協定の締結やシンポジウム等の開催など、学内外の意識啓発と国内外のネットワーク形成を推進してきた。また、大阪府や企業と連携して雇用の多様性推進とワークライフバランス支援を行ってきた。さらに、平成 22 年度には奥野武俊本学理事長および稲葉カヨ京都大学女性研究者支援センター長を講師として、本学の理系女性研究者支援の取組に関する講演会・セミナーの開催を決定している。国内外の大学・行政・企業等にネットワークをもつ研究機関として、主に意識啓発の側面から、学内外において理系女性研究者への支援と仕事・研究と家族責任の両立支援に取り組んでいるところである。

2．計画構想の内容

取組の実施にあたっては、理事長を長とする女性研究者支援システム改革ステアリング委員会が全学的責任を負い、そのもとに企画・調整・運営管理を行う女性研究者支援センターを設立する。センターには、センター長（統括）、コーディネーター（相談窓口および統括補佐）、事務員、および全学から選ばれた運営委員による運営委員会を置き、重点的に１）支援のための環境整備、２）全学的意識改革、３）キャリアパスの確立、４）サポート基盤の整備の 4 つの柱で取組を実施する。以上の取組に対して、センターの外部に有識者による評価委員会を設置し、単年度ごとに取組の評価を行う。この評価は公開し、センターは評価に基づいて改善を行う。

3．実施期間終了時における具体的な目標

a. 事業終了までの 3 年間で理系女性研究者数を現在の 30%アップを目指す
b. 理系博士課程を修了する女性院生数の比率を 25%まで引き上げる
c. 若手女性研究者のためのメンター制度の創設
d. 相談窓口の開設
e. 出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のための研究支援員の配置
f. 学内外の理系女性研究者・技術者ネットワークの構築
g. ロールモデル・バンクの構築と活用による地域貢献

4．実施期間終了後の取組

a. 「大阪府立大学における多様な人材活用推進の基本方針」のもと、多様な人材活用推進担当者を配置し、包括的支援体制としての強化・充実を図る。
b. 学内外の評価システムを活かして支援体制を改善し、さらなる支援を行う。

5．期待される波及効果

a. 全学的な改革による、理系女性研究者の研究水準の向上とそれを支える本学構成員の意識変革。
b. 大阪府の施策の活用を通して地域に貢献することによる理系女性研究者のロールモデルの普及。

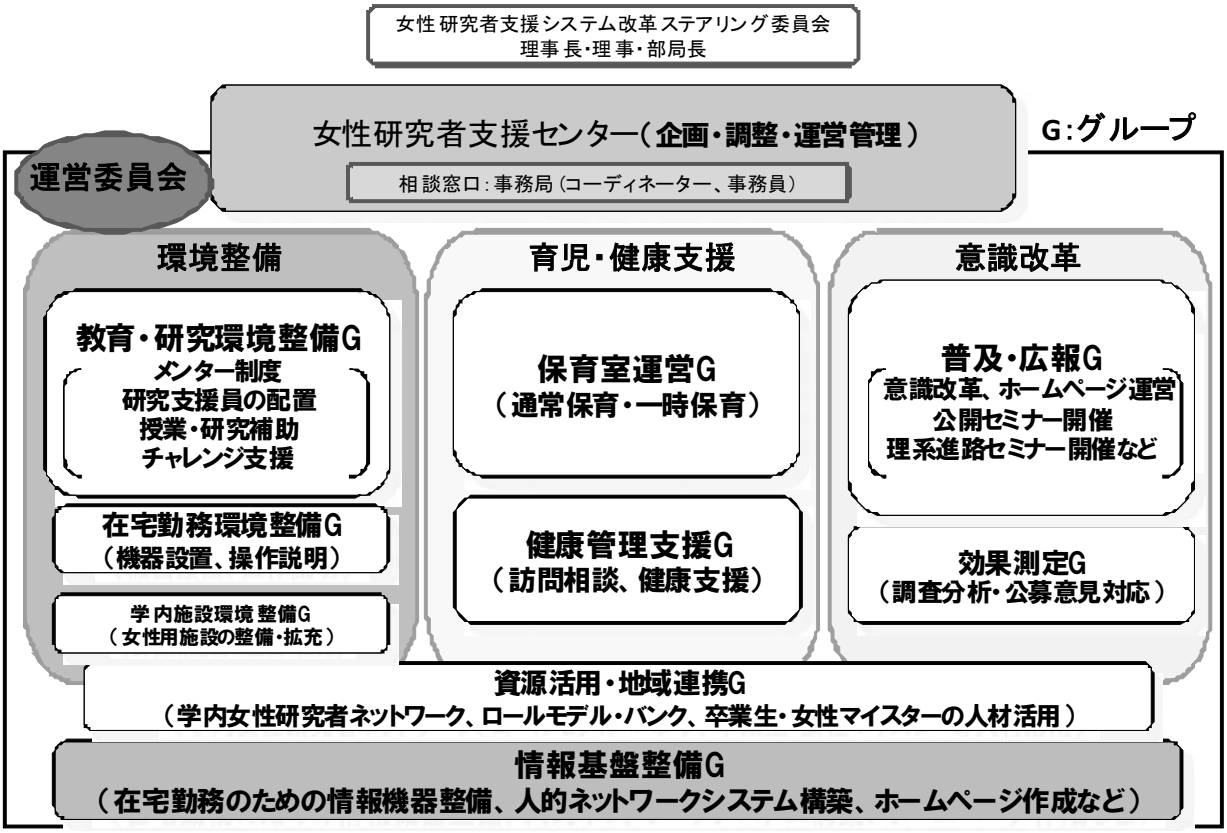
６．実施体制

理事長を長とする女性研究者支援システム改革ステアリング委員会が全学的統括を行い、そのもとに女性研究者支援センターを設立し、ここで企画・調整・運営管理を行う。センターには、センター長（統括）、事務局（コーディネーター、事務員）と、全学から選ばれた運営委員による運営委員会を置く。

運営委員会はセンター長のもと、運営委員および事務局によって構成され、取組について協議しその結果を女性研究者支援システム改革ステアリング委員会に報告する。運営委員は下記の取組を重点的に担当する各グループのグループ長が務める。

各グループは、学内外の関連部署と連携して諸事業に取組むとともに、その結果及び事後評価を運営委員会に報告する義務を負う。事務局を担当するコーディネーターは、センターの包括的な実施運営を事務的に管掌するほか、相談窓口を担当し、さまざまな問い合わせを受け、適切な支援をアレンジするとともに、そこから得られた情報がその後の支援体制の改善に反映されるよう、運営委員会に報告する義務を負う。

運営委員会で承認された取組に対して、センターの外部に有識者による評価委員会を設置し、単年度ごとに取組の評価を行う。この評価は公開し、センターは評価に基づいて改善を行う。



ステアリング委員会委員名簿

＊：委員長

奥野　武俊＊	理事長
安保　正一	学術・研究担当理事、学術情報センター長、２１世紀科学研究機構長
寺迫　正廣	教務・学生担当理事、学生センター長
菅野　昌志	産学官連携・社会貢献担当理事、産学官連携機構長
正木　裕	総務担当理事
辻田　正人	経営担当理事
辻川　吉春	工学研究科長
小崎　俊司	生命環境科学研究科長
前川　寛和	理学系研究科長
山本　浩二	経済学部長
萩原　弘子	人間社会学部長
高見沢　恵美子	看護学部長
今木　雅英	総合リハビリテーション学部長
山口　義久	総合教育研究機構長

運営委員会委員名簿　および　事務局名簿

氏名	所属部局・職名	当該構想における役割
田間　泰子	人間社会学部・教授 女性研究者支援センター・センター長	センター運営委員会委員長　実施責任者
伊田　久美子	人間社会学部・教授 女性学研究センター・主任	センター運営委員会副委員長　意識啓発活動担当
真嶋　由貴惠	総合教育研究機構・教授	センター運営委員会委員　在宅勤務環境整備・情報化サポート担当
細越　裕子	理学系研究科・教授	センター運営委員会委員　理系部会担当
石田　武和	工学研究科・教授 「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラムオフィサー	センター運営委員会委員　「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラムとの連携
杉村　延広	工学研究科・教授	センター運営委員会委員　理系部会担当
小川　和重	生命環境科学研究科・教授	センター運営委員会委員　理系部会担当
中山　美由紀	看護学部・教授	センター運営委員会委員　保健相談窓口担当
立山　清美	総合リハビリテーション学部・講師	センター運営委員会　意識啓発活動担当
若林　緑	経済学部・准教授	センター運営委員会　保育室開設・運営担当
松井　厚	総務部人事課・課長補佐	センター運営委員会　柔軟な勤務時間体制担当
勝島　小百合	総務部総合調整室・統括主査	事務推進のためのサポート
巽　真理子	女性研究者支援センター・コーディネーター	事業全般の企画・運営
安西　由美子	女性研究者支援センター	事業全般のサポート
関　洋江	女性研究者支援センター	広報・情報担当
尾形　尚子	女性研究者支援センター	キャリアパスの構築と裾野拡大担当

平成２２年度　事業計画

１．女性研究者支援のための環境整備

全学ステアリング委員会・運営委員会・外部評価委員会の設置・開催、女性研究者支援センターの設置・運営、支援センターオープニングイベントの開催、ロールモデルバンクの構築、相談窓口の開設、在宅勤務支援、研究支援員の配置、メンター制度の構築、保健師の巡回、ホームページの開設等により環境整備を行う。

２．全学的意識改革事業

女性研究者支援に対する理解の促進とワークバランス文化の醸成のために、ロールモデルによる公開セミナー等を実施する。

３．キャリアパスの構築と裾野拡大

・　国内外の著名な理系女性研究者をロールモデルとして招聘し、国際セミナー、ロールモデル招聘セミナーを開催する。また、学内交流の場としてサイエンスカフェを設定し、理系女子学生向けのキャリアパスに関する相談の場を充実させる。

・　大阪府や堺市と連携し、府下の小中高等に理系女子学生を講師派遣する。また、理系女子学生を中心にキャンパス内で子どもサイエンスキャンパス等を企画・実施する。

４．サポート基盤の整備

本事業の実現に必要な情報化サポート体制等を整備する。具体的には、上記①の相談窓口に寄せられる案件のうち、在宅勤務し、かつ自宅からウェブカメラによって学生の教育指導・研究実験の継続・会議参加等の要望があるものについて、優先順位を審査のうえ、ウェブカメラの設置(学内の必要部署)とウェブカメラ付専用パソコンの一定期間の貸与・セキュリティ管理等のサポートを行う。

５．保育室設置・運営（補助対象外事業）

平成 23 年度開設予定の中百舌鳥キャンパス健康管理センターの一角に保育室を設置する。

６．インセンティブ制度（補助対象外事業）

国際セミナー・ワークショップにおける優秀理系女子学生に対する学会参加支援等のインセンティブを検討する。

Ⅱ．事業実施報告

平成２２年度　事業実施一覧（時系列）　※○内の数字は開催または発行回数を示す。

年　月　日	事　業　内　容
平成２２年	
５月２１日（金）	採択決定
６月　１日（火）	女性研究者支援センター（以下、「支援センター」）開設準備開始
１６日（水）	支援センターのコーディネーター雇用開始
３０日（水）	サイエンス・カフェ①開催
３０日（水）	他大学調査（京都大学）
７月　２日（金）	サイエンス・カフェ②開催
６日（火）	ステアリング委員会①開催
６日（火）	運営委員会①開催
１２日（月）	支援センターの事務職員雇用開始
２３日（金）	授業での事業概要説明（工学研究科）
２４日（土）	ロールモデル招聘セミナー「はやぶさ」講演会開催
２４日（土）	女性学連続講演会
８月　２日（月）	学内の理系女性研究者へのヒアリング調査（９月９日まで）
７日（土）	支援センターホームページおよびロールモデル・バンク・システム準備開始
７日（土）・８日（日）	オープンキャンパス「理系女子コーナー」開催
１０日（火）	研究支援員マッチング開始
１０日（火）	保育施設開設準備委員会①開催
１７日（火）	ＪＳＴ本学訪問
３１日（火）	ロールモデル・バンク構築①　斐文会（大阪女子大学同窓会）へ募集
９月　１日（水）	研究支援員（研究者①へ派遣）雇用開始（１１月３０日まで）※1.（6）参照
９日（木）	保育施設開設準備委員会②開催
１５日（水）	保育施設開設準備委員会③開催
２７日（月）	大阪府男女共同参画審議会にて事業概要説明
２８日（火）	他大学との情報交換（奈良県立医科大学、和歌山大学）
２９日（水）	保育施設開設準備委員会④開催
１０月　１日（金）	研究支援員（研究者②）雇用開始（平成２３年３月３１日まで）
１日（金）	授業での事業概要説明開始（２６日まで：生命環境科学部、理学部、理学系研究科）
１日（金）	支援センターのホームページ開設
１日（金）	ロールモデル・バンク・システム開始
１日（金）	支援センター相談窓口開設
５日（火）・６日（水）	女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウムへ参加
７日（木）	男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへ参加
15日（金）・18日（月）	保育施設利用者説明会
１８日（月）	研究支援員（研究者③）雇用開始（平成２３年３月３１日まで）
１９日（火）	サイエンス・カフェ③開催

１１月　１日（月）	研究支援員（研究者④⑤）雇用開始（平成２３年３月３１日まで）
２日（火）	女性の健康相談窓口開設
４日（木）	ロールモデル・バンク構築②　シャープ(株)へ募集
５日（金）	支援センター・パンフレット発行
６日（土）	子どもサイエンスキャンパス開催（白鷺祭）
１２日（金）	ニュースレター①発行
１４日（日）	キックオフ・シンポジウム開催
１４日（日）	女性研究者懇話会の立ち上げと呼びかけ
１２月　１日（水）	研究支援員（研究者①－２）雇用開始（平成２３年３月３１日まで）
２日（木）	運営委員会②開催
３日（金）	女性研究者懇話会　ランチ・ミーティング①
１０日（金）	外部評価委員会　委員選定開始
２８日（火）	理系女子大学院生表彰　募集開始
平成２３年	
１月　４日（火）	支援センターの情報・広報担当職員、裾野拡大事業担当職員　雇用開始
４日（火）	研究支援員（研究者⑥－１、２）雇用開始（３月３１日まで）
７日（金）	他大学調査（宮崎大学）
１２日（水）	平成２３年度研究支援員派遣申請　受付開始
１２日（水）	Web アンケート実施（１月３１日まで）
２０日（木）	在宅就業支援　web カメラ付パソコン貸出開始
２２日（土）	他大学調査（関西学院大学）
２７日（木）	保育施設　建設開始
２月　２日（水）	理系女子大学院生表彰　審査開始
４日（木）	来年度運営委員の依頼開始
９日（水）	アンケート実施（２月２２日まで）
１０日（木）	外部評価委員会　書面審査実施
２３日（水）	理系女子大学院生表彰　公開審査会開催
３月　２日（水）	日本学術会議にて事業概要説明（公立大学採択校として）
４日（金）	運営委員会③開催
４日（金）	（株）科学新聞社取材
５日（土）	他大学調査（東北大学）
１１日（金）	ニュースレター②発行
１５日（火）	他大学調査（三重大学）
１６日（水）	ステアリング委員会②開催
１６日（水）	女性研究者懇話会　ランチ・ミーティング②
１７日（木）	子育て（応援）バッチ・シール・キャンペーン開始
１９日（土）	一般公開セミナー「リケジョ（理系女子）のお仕事」開催
２３日（水）	他大学調査（神戸大学）

１．女性研究者支援のための環境整備

（１）ステアリング委員会の設置と開催

女性研究者支援システム改革を全学的な取り組みとして進めるため、理事長を長とするステアリング委員会を設置し、今年度は２回開催した。

また、他にも必要に応じて、役員連絡会議や部局長連絡会議などを通じて、また個別に、事業についての協力依頼・相談・報告等を行い、全学的な連携・協力体制の確立に努めている。

①第１回（平成２２年７月６日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１棟　大会議室）にて）

・科学技術振興調整費大阪府立大学採択プログラム実施要綱について
・プログラム・オフィサーの選任
・運営委員会運営要領の確認
・運営委員の選任について
・今年度の事業方針

②第２回（平成２３年３月１６日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１棟　大会議室）にて）

・今年度の事業報告
・来年度以降の女性研究者支援事業とその体制について
・来年度の事業予定について

（２）運営委員会の設置と開催

事業を円滑に進めるため、学内各部局から運営委員を選出し、女性研究者支援センター運営委員会を設置し、今年度は３回開催した。

運営委員会では各事業を分担し、運営委員は実際に事業を進めるにあたって、企画・運営や交渉なども行い、事業を推進する上で大きな力となった。

①第１回（平成２２年７月６日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１棟　総務部別室）にて）

・運営委員紹介
・事業概要について
・各種要項について
・今年度の事業と分担について
・その他

②第２回（平成２２年１２月２日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１棟　大会議室東）にて）

・今年度の事業報告と今後の予定
　概ね、予定どおり執行
・来年度以降の事業予定と体制について
　規模の大きい工学研究科と、キャンパスの分かれる生命環境科学研究科について、委員

を１名ずつ増やし、働きかけを強化する。

地域貢献・地域連携が非常に不十分だったので、来年度の課題とする。

メンター制度について、どのような形がよいか、実施の仕方を検討する。

・外部評価委員会について

・学内の他プロジェクトにおける女性研究者支援との連携・分担について

・女子大学院生に対する国際会議等派遣のためのインセンティブについて

・その他

再来年度（最終年度）は全学的な改組にともない運営委員等を見直すとともに、本事業内容を学内のルーティンに組み込み、事業終了後に継続できる体制をめざす。

②第３回（平成２３年３月４日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１棟　大会議室東）にて）

・今年度の事業報告と今後の予定

・来年度以降の事業予定と体制について

・外部評価委員会について

・裾野拡大事業について

・その他

（３）外部評価委員会の設置と開催（平成２３年２月）

第３者の立場から本事業の評価を行ってもらうため、外部評価委員の選定・委嘱を行い、外部評価委員会を設置した。

また、書面にて今年度の事業報告を行い、それに対する評価を行った。総評については書面で行うだけでなく、稲葉委員長に３月の運営委員会に来学していただき、直接、講評を行っていただいた。

〈外部評価委員会　委員名簿〉　　＊：委員長（委員長以外は５０音順）

稲葉　カヨ＊	京都大学女性研究者支援センター長、京都大学生命科学研究科教授、理学博士
東　一洋	株式会社日本総合研究所　総合研究部門　社会・産業デザイン事業部シニアマネージャー
戒能　民江	お茶の水女子大学理事・副学長、日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会委員、法学修士
溝口　明代	株式会社サンケイリビング新聞社　取締役

（４）女性研究者支援センターの設置（平成２２年６月１日～　中百舌鳥キャンパス）

６月１日より、本事業の推進の中心となり、企画・調整・運営管理を行う女性研究者支援センター設置の準備を開始し、６月１６日よりコーディネーターを、７月１２日より事務職員を雇用し、センター長以下３名で、本格的にスタートさせた。

その後、事業の展開により業務量が増えたことを受け、１月４日より情報・広報担当職員と裾野拡大事業担当職員の雇用を開始し、５名に増員した（p.１４　事務局名簿参照）。

センターは、当初は中百舌鳥キャンパスの大学本部（Ａ１棟）２階に設置し、事務サポートを行っている総務部総合調整室や、人事課、総務課、経営企画課などとも連絡が取りやすい場所にあった。平成２３年３月２９日には、新しく建築された学内保育園（つばさ保育園）と同じ建物内に移転して、中百舌鳥キャンパスのほぼ中央に位置することになり、キャンパス内の他部局との連携をより深めていきやすい場所となっている。

（５）女性研究者ヒアリング調査

（平成２２年７月２６日～１１月３０日　中百舌鳥キャンパス、りんくうキャンパスにて）

本事業の直接支援の対象となる工学研究科・生命環境科学研究科・理学系研究科・総合教育研究機構・２１世紀科学研究機構に所属する理系の女性研究者（教員）２３名のうち、面接を希望した１８名（７８.２％）に対して実施した。実施対象者は上述の全部局に渡り、その年齢層は２０代から５０代、職階も助教から教授までと幅広かった。また中百舌鳥キャンパスだけでなく、りんくうキャンパスでも実施した（羽曳野キャンパスには対象部局なし）。

ヒアリング時には、本事業の概要説明を行った後、研究者自身のニーズや、周囲の女子大学院生・学部生等のニーズなどを聞いた。ニーズのうち本事業の支援対象となるものについて

は、ヒアリング実施後、研究支援員配置（後述（６）を参照）や在宅就業支援のための web カメラ付パソコンの貸出（後述４．（１）を参照）等の支援を行った。

（６）研究支援員配置

（平成２２年９月１日～３月３１日　中百舌鳥キャンパス、りんくうキャンパスにて）

今年度は、６名の女性研究者（教員）に対して、８名の研究支援員を配置した。

当初は実験補助等を行う「特任支援員Ａ」「特任支援員Ｂ」の配置を予想し、本学の人事規程に新たな枠を設けて準備していたが、配置先の研究者のニーズに合わせて、「事務補助」や「技術補助」の研究支援員も配置した。

研究支援員　22年度実績

支援対象者	所属	期間	支援員職位	勤務日数	備考
研究者①	21世紀科学研究機構	①9月1日～11月31日	特任支援員B	週2日（火・木）	
		②12月1日～3月31日	特任支援員B	週3日	2月より週5日
研究者②	工学研究科	10月1日～3月31日	技術補助	週5日	
研究者③	理学系研究科	10月18日～3月31日	事務補助	週5日	
研究者④	理学系研究科	11月1日～3月31日	特任支援員B	週5日	
研究者⑤	生命環境科学研究科	11月1日～3月31日	特任支援員B	週3日	1月より週4日
研究者⑥	総合教育研究機構	①1月1日～3月31日	技術補助	月7回	
		②1月1日～3月31日	事務補助	週1回	

〈研究支援員の職位について〉

基本的に、研究支援員の学歴・経歴に合わせて摘要している。

・特任支援員Ａ：博士の学位を有する者又は同程度の能力を有するもの

・特任支援員Ｂ：修士の学位を有する者又は同程度の能力を有するもの

・事務補助、技術補助：上記に該当しないものに摘要

（７）他機関との連携

１）調査

①シンポジウム「男だって育児休業（シリーズ　私の仕事とキャリアデザイン２）」への参加

（平成２２年６月３０日　京都大学にて。参加者：巽真理子）

京都大学は、平成１８年度～２０年度「女性研究者支援モデル育成」、平成２１年度～２６年度「女性研究者養成システム改革加速」事業に採択されており、関西でも先進的に女性研究者支援を進めている機関である。このシンポジウムでは、男女とも働く若手研究者カップルの実例を取り上げてパネルディスカッションを行っていた。これに参加したことで、育児中の若手カップルの悩みを知ることができた。また、シンポジウム後に行われた懇親会にも参加して、来場していた他機関と情報交換することができた。

〔参考になった点〕

・育児中の若手研究者カップルは、希望するポストが少ないため、一般企業に勤務する場合に比べて、お互いの研究や仕事の都合で単身赴任になっている場合も多く、育児がどちらか（ほとんどは女性）に任される形となり、その負担は大きいという実態が分かった。

・経験談を伺う中で、研究支援員制度や学内保育園が、女性研究者が研究を続けていく上で、欠かせない支援であることが分かった。

〔本学の事業へ活かした点〕

・研究支援員の迅速な配置。

・主催する事業の運営方法や学内外への広報の方法。

②「女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム」への参加

（平成２２年１０月５・６日　京都大学にて。参加者：田間泰子、巽真理子）

このシンポジウムには、「女性研究者支援モデル育成」および「女性研究者養成システム改革加速」の採択機関が集まり、２日間に渡って、ポスター発表、グループディスカッション、事業報告やパネルディスカッションが行われた。これらの企画への参加を通して、他機関と事業実践について、詳細な情報交換をすることができた。

〔参考になった点〕

・ホームページや報告書では伝わってこない、実践についての詳細を知ることができた。

・他機関の実践を伺う中で、本事業は「全学的に」推進することが大切で、そのためには理事長・学長をはじめとするトップからのメッセージ・実践が必要であることを改めて感じた。

〔本学の事業へ活かした点〕

・ここで培ったネットワークによって、その後の他大学調査や情報交換がしやすくなり、事業展開に役立てることができた。

・理事長や理事の講演会等への参加やニュースレターへの寄稿を積極的に行い、全学的な取り組みであることを学内外にアピールした。

ポスター・ディスカッション

オープニング・セッション

事業概要説明用ポスター

③「第８回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム」への参加

（平成２２年１０月７日　理化学研究所和光研究所にて。参加者：巽真理子）

男女共同参画学協会連絡会が主催するシンポジウムにおいて、ポスター発表および講演会等に参加した。参加していた他機関と実践について情報交換をし、理系学会の男女共同参画の動きについても知ることができた。

〔参考になった点〕

・理系学会に所属する他機関の支援される側の女性研究者の話を聞く機会もあり、支援する側からだけでなく、多面的に女性研究者支援について考えることができた。

〔本学の事業へ活かした点〕

・ここで培ったネットワークによって、その後の他大学調査や情報交換がしやすくなり、事業展開に役立てることができた。

④「宮崎大学　男女共同参画シンポジウム」への参加

（平成２３年１月７日　宮崎大学にて。参加者：巽真理子）

宮崎大学は、平成２０年度～２２年度に「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、今年度が最終年度である。このシンポジウムは、その締めくくりとして行われた。各部局（研究部門や職員部局も含む）の長が壇上に上がり、各部局の女性比率やその理由、今後の対策について発表した。また、その後の分科会でのワークショップには、学長や学部長も参加し、他の参加者（主に教職員）と気軽に意見のやり取りが行われていた。参加者のほとんどは、宮崎大学が意識改革事業の一環として実施していた「子育てバッジ・シール」「子育て応援バッジ・シール」を身につけており、３年間の事業の成果を感じた。

シンポジウム終了後は、来場していた九州大学および岩手大学も交えて、宮崎大学の女性研究者支援スタッフと情報交換することができた。特に、宮崎大学や九州大学も参加している、九州・沖縄地区の女性研究者支援ネットワークは、各々の学内で女性研究者支援事業を進めて行く上でも重要なものとなっており、今後、関西で展開することも視野に入れていきたい。

〔参考になった点〕

・本事業を全学的な取り組みとして実施することの意味を実感した。

〔本学の事業へ活かした点〕

・意識改革事業の一環として、宮崎大学の「子育てバッジ・シール」「子育て応援バッジ・シール」事業を参考に、本学でも実施することとした。

⑤「関西学院大学　第１回男女共同参画フォーラム」への参加

（平成２３年１月２２日　関西学院大学にて。参加者：巽真理子）

関西学院大学は、今年度、関西の私学としてはじめて「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、このシンポジウムはキックオフ・イベントとして行われた。講演会、パネルディスカッションの後には、情報交換会が行われ、他機関の女性研究者支援関係者だけでなく、パネリストとして参加していた企業の方とも情報交換することができた。

〔参考になった点〕

・会場案内・整理係として、たくさんの学生を雇用し、本事業に関わる機会としていた。

〔本学の事業へ活かした点〕

・当日資料の作成や配布方法の工夫。

⑥「東北大学　サイエンス・エンジェル活動報告会」への参加

（平成２３年３月５日　東北大学にて。参加者：巽真理子、黒田桂菜（本学工学研究科博士後期課程１年））

東北大学は、平成１８年度～２０年度「女性研究者支援モデル育成」、平成２１年度～２６年度「女性研究者養成システム改革加速」事業に採択されており、特に「サイエンス・エンジェル」と呼ばれる自然科学系女子大学院生の活用では定評がある。

来年度、本学でも同じ様な試みを行う準備として、この報告会へ参加した。今回は、コーディネーターと共に、実際に活動する予定の本学の工学研究科の女子大学院生も参加した。また、報告会終了後には、東北大学のサイエンス・エンジェルの担当者、およびサイエンス・エンジェルとして活動している大学院生に話を伺った。サイエンス・エンジェル活動は、小中高校生に自らがロールモデルとなって理系女性の存在をアピールするものであるが、それだけではなく、サイエンス・エンジェルのつながりの中で、先輩や女性研究者など、サイエンス・エンジェル自身が身近にロールモデルを見つけることができていた。このようなネットワークは、理系の女子大学院生にとって、キャリアパス構築のためにも大切なものであるので、本学で活動していく際にも取り入れていきたい。

⑦三重大学訪問

（平成２３年３月１５日　三重大学にて。参加者：田間泰子、巽　真理子）

三重大学は、平成２０年度～２２年度「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されている。地域の７つの大学・高等専門学校・研究機関と連携を行っており、本学で来年度から本格的に実施する予定の地域連携についてのお話を伺った。

⑧「神戸大学　国際シンポジウム　国際社会をリードする女性研究者たち」への参加

（平成２３年３月２３日　神戸大学にて。参加者：巽　真理子）

２）情報交換

①奈良県立医科大学と和歌山大学

（平成２２年９月２８日　中百舌鳥キャンパス（田間研究室）にて。参加者：田間泰子・巽真理子、事務所管である総合調整室から船野室長・佐藤参与・勝島主査）

女性研究者支援事業を進める準備をしている、奈良県立医科大学と和歌山大学の担当者４名が来学し、それぞれの大学の取組状況および本学の本事業の取組の背景から現状までの取組状況について説明し、情報交換を行った。

近隣他県の大学との交流により、今後の協力体制を築く機会を作ることができた。

また、本学の事業について説明や質疑応答を行うことで、改めて、本事業の意義や今後の展開について、考えることができた。

（８）相談窓口開設

①支援センター相談窓口開設（平成２２年１０月１日～）

女性が研究を続けていくための相談に応じるため、支援センター相談窓口を開設した。ここでは、コーディネーターが相談を受けながら女性研究者支援事業の案内をすることで、本事業の活用を促すことができる。相談を受けるにあたっては、特に日時を限定せず、女性研究者支援センターが開室している間、受付している。また、相談専用電話回線、支援センターのメールアドレスを設置し、気軽に相談できるようにしている。

今年度の相談件数は０件であったが、これは前述（５）女性研究者ヒアリング調査によって、ニーズを積極的に拾いに行き、支援を実施したためであると考えている。

②女性の健康相談窓口開設（平成２２年１１月１日～）

保健師・助産師がキャンパス内を巡視し、研究・職場環境について、健康面からのチェックを行っている。また、希望により、女性の教職員および学生の健康に関する個別相談に応じている。

１１月１日から中百舌鳥キャンパス、１２月１日からはりんくうキャンパスおよび羽曳野キャンパスと、全キャンパスを対象として行っている。

個別相談の件数は６件で、全て中百舌鳥キャンパスにおいてであった。これは、広報の際に巡視のお知らせが全面的に出てしまい、個別相談の受付についてのお知らせが埋もれてしまったためであると考えられる。また、本学内には他にも相談窓口が多くあり、今後は、個別相談についての広報の工夫、特に他の相談窓口との差別化を図っていくことが必要である。それと平行して、教職員が就業時間内でも気軽に相談できるよう、ステアリング委員会を通して各部局・部署の長に呼びかけるなどの働きかけも必要である。

（９）「キックオフ・シンポジウム」の開催

（平成２２年１１月１４日　中百舌鳥キャンパス（学術交流会館　多目的ホール）にて
９３名参加（内訳　学生１８名、教員１８名、職員３７名、一般２０名））

本学の女性研究者支援事業のキックオフ・イベントとして開催した。行政、大阪女子大学出身のロールモデル、子どもを育てながら研究を続けてきた女性研究者、と様々な立場からのお話を伺うことで、女性研究者支援事業について多方面から考える機会となった。

また、このシンポジウムには学内の教職員が多く参加し、これまで直接関わってこなかった教職員にも、本学の女性研究者支援事業について知ってもらう機会となった。しかし、日曜日の開催であったためか、本学の学生の参加が少なく、今後の課題である。

また、行政関係者や同窓会関係者に来賓として来てもらうことによりネットワークができ、その後の連携が取りやすくなった。

シンポジウムの開催が日曜日であり、保育園や学校および学童保育が休日であったため、本事業としては初めて託児をつけ、１歳から小学１年生まで、計５人のお子さんを預かった。今後も事業によって、また開催日によっては、積極的に託児をつけていきたいと考えている。

シンポジウム開催後は会場横の生協食堂ミナーレにおいて懇親会を行い、講師や来賓、本学

教職員・学生、他大学の女性研究者支援関係者と交流し、情報交換する機会をもった。なお、このシンポジウムの様子は、３月に発行したニュースレター第２号に掲載した。

キックオフ・シンポジウム

託児室

〈プログラム〉

・特別講演「女性研究者の現状と大阪府立大学への期待」
　板倉周一郎（文部科学省　科学技術・学術政策局基盤政策課長）
・ロールモデル講演「未来を担う女性研究者への期待」
　小島秀子（愛媛大学女性未来育成センター長、同大学院理工学研究科教授）
・基調講演「分子をつくる：化学と私」
　野崎京子（東京大学大学院工学研究科教授、猿橋賞受賞者）

〈来賓〉

	大阪府	府民文化部長	福田昌弘（知事メッセージ代読）
	堺　市	副　市　長	芳賀俊洋（市長メッセージ代読）
	校友会（大阪府立大学同窓会）	会　長	井本一幸
	白鳥会（大阪府立看護大学同窓会）	会　長	濱口亜紀
メッセージ	斐文会（大阪女子大学同窓会）	理事長	髙橋充子

〈参加〉　独立行政法人科学技術振興機構（ＪＳＴ）
　　山村康子　プログラム・オフィサー
　　永幡紀明　主任調査員

シンポジウム後の懇親会の様子

今年度、大阪府立大学の「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」が、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択されました。これは、理系の女性研究者・院生・学生のために、様々な支援プログラムを実施し、府大の理系女性研究者を増やしていこうというプロジェクトです。このプロジェクトのスタートを記念して、キックオフ・シンポジウムを開催します。様々な角度から、女性研究者支援について考える絶好の機会です。ぜひ、ご参加ください。

元気！活き生き 女性研究者・公立大学モデル

キックオフ・シンポジウム

日時 11月14日（日） 14:00～16:45

会場 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス
C1棟 学術交流会館 多目的ホール（堺市中区学園町1−1）

●定員：180名　●参加無料（要申し込み）
●託児あり（対象…2ヶ月～小学3年生・無料・要申し込み）

17:00～
懇親会
大阪府立大学生協
パーティルームにて
会費 5000円

14:00　開会
14:05～ 主催者挨拶　奥野 武俊（大阪府立大学学長）
14:15～ 来賓挨拶
14:25～ **特別講演「女性研究者の現状と大阪府立大学への期待」**
●講師：文部科学省 科学技術・学術政策局基盤政策課
14:45～ **ロールモデル講演「未来を担う女性研究者への期待」**
●講師：小島 秀子（愛媛大学女性未来育成センター長、同大学院理工学研究科教授）
15:30～ **基調講演「分子をつくる：化学と私」**
●講師：野崎 京子（東京大学大学院工学研究科教授、猿橋賞受賞者）
16:30～ 本学の女性研究者支援事業の取り組み紹介
16:45　閉会

お申し込み・お問い合わせ
・大阪府立大学女性研究者支援センター
TEL・FAX（072）254-9856
<受付時間>（月）～（金）10:00～16:00
E.mail/w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
・申し込み締切（シンポジウム・懇親会・託児）/10月末日

交通アクセス
・南海高野線「白鷺」駅下車徒歩約6分
・地下鉄御堂筋線「なかもず」駅下車徒歩約13分

<キャンパス図>

ロールモデル講演
未来を担う女性研究者への期待
講師：小島 秀子 <本学出身者>

■講師プロフィール
1971年、大阪女子大学学芸学部生活理学科卒業。三菱電機株式会社、筑波大学、龍谷大学理工学部、愛媛大学工学部を経て、2006年4月より愛媛大学大学院理工学研究科教授。

基調講演
分子をつくる：化学と私
講師：野崎 京子　猿橋賞受賞者

■講師プロフィール
1986年、京都大学工学部工業化学科卒業。同学大学院工学研究科博士後期課程を修了し、工学博士の学位を取得。同学工学部工業化学科助手、同学大学院工学研究科材料化学専攻助手、同学大学院工学研究科材料化学専攻助教授、東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻助教授を経て、2003年より東京大学大学院工学研究科教授。2008年に猿橋賞受賞。

<主催>大阪府立大学女性研究者支援センター　http://www.opu-genki.jp
<後援>大阪府・堺市

大阪府立大学 OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

（１０）女性研究者懇話会　ランチ・ミーティング開催

①（平成２２年１２月３日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１棟大会議室東）にて　５名参加）

学内の女性研究者ネットワーク構築の一環として、工学研究科の中川智皓助教が発起人となって、女性研究者懇話会が立ち上がった。今年度の懇話会には、文系・理系を問わず、７名が参加している。また、教員だけでなく、博士後期課程の大学院生も参加している。

昼休みを利用して行われたランチ・ミーティングには、５名が集まり、自己紹介と情報交換を行った。女性研究者は、同じ学部・研究科内でも、学科が違うとあまり会う機会がないようで、この日は名前を知っていても合うのは初めて、というケースもあり、今後の情報交換のきっかけとなった。また、様々な職階、年齢の人が集まり、多様なネットワークを構築する機会ともなった。

ランチ・ミーティングの最後には、今後も年に何回かこのような実際に会う場をつくり、さらにネットワークを広げていくことを確認した。

支援センターとしては、この女性研究者の自主的な取り組みを、広報やシステム作り等でバックアップを行っていきたいと考えている。特に来年度以降に展開する女性研究者ＳＮＳやメンター制度については、女性研究者懇話会の意見を積極的に取り入れながら作り上げて行く予定である。

元気！活き生き
女性研究者・公立大学モデル

振興調整費

大阪府立大学　女性研究者　懇話会　のお知らせ

大阪府立大学では，今年度から「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」がスタートしています．本プロジェクトをきっかけに，大阪府立大学の女性研究者が集い，ざっくばらんに研究や家庭のことなどの情報交換をする機会を持ちませんか？年に数回，そのような懇話会を企画したいと考えております．

女性研究者支援センター協力のもと，懇話会のご案内をお送りいたします．案内をご希望の方は，下記フォームを女性研究者支援センターまで，お送り下さい．

大阪府立大学女性研究者支援センター
（内線　２７５８）
TEL/FAX: (072)254-9856
Email:w-support@ao.osakafu-u.ac.jp

発起人：工学研究科　中川智皓

---------- キリトリ ----------

大阪府立大学　女性研究者　懇話会

ご所属：＿＿＿＿＿＿＿＿　お名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿　内線番号：＿＿＿＿

懇話会に関するご希望：

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ランチ・ミーティング

←　懇話会への参加呼びかけチラシ

②（平成２３年３月１６日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１棟大会議室東）にて　16 名参加）

（１１）ロールモデル・バンク構築

①ロールモデル・バンク構築（平成２２年８月３１日　斐文会（大阪女子大学同窓会）にて）

本学の前身である大阪女子大学同窓会「斐文会」の協力を得て、本事業に参画してくれるロールモデルを、郵送により募集した。２１通の応募があり、これはロールモデルの募集方法としては対費用効果が薄いが、本学の理系女性同窓生の大半への広報を兼ねて実施した。

これを実施したことによって、斐文会とのその後の協力体制ができ、研究支援員候補者の紹介などにもつながった。また、１１月１４日のキックオフ・シンポジウムのロールモデル講演に、当同窓生を講師として迎えることとなり、会長から来賓祝辞をいただくこともできた。

②ロールモデル・バンク・システム始動（平成２２年１０月１日～）

ロールモデル候補者に登録してもらうことにより、その後のサイエンス・カフェやセミナーなどの講師、研究支援員などへ人材活用するため、ロールモデル・バンク・システムを立ち上げた。今後は、地域連携とともに、同窓会や行政、企業にも登録を呼びかけていく予定である。

③ロールモデル・バンク構築（平成２２年１１月４日　シャープ株式会社にて）

シャープ株式会社の協力を得て、本事業に参画してくれるロールモデルを、郵送により募集した。本学の理系出身者７名に対して行ったところ、１名の応募があった。

④ロールモデル・バンクの活用

前述のように構築したロールモデル・バンクは、研究支援員の募集・採用、当センターの裾野拡大事業担当職員の募集・採用、ニュースレターの「ロールモデル・エッセイ」への寄稿呼びかけ、公開セミナーの講師依頼など、積極的に活用している。

残念ながら、今年度は「ロールモデル・エッセイ」への寄稿と公開セミナーの講師については、センターからの依頼に対して多忙等のため断られ、実現しなかった。しかし、来年度以降も、本学の女子大学院生がロールモデル・バンク登録者にインタビューしたものをホームページやニュースレターに掲載するなどの、幅広い事業への活用を予定している。

（１２）本事業の認知度調査

①Web アンケートの実施（平成２３年１月１２日～１月３１日）

本学教職員と院生を対象に実施した。これは、本学における仕事・勉学と家庭生活・個人生活の両立しやすい環境整備を行うため、また、本事業の認知度を測るために行った。残念ながら、Web による回答が少なく（３６件）、分析に十分な数が集まらなかったため、その後、紙ベースで実施した（下記②参照）。

②アンケートの実施（平成２３年２月９日～２月２２日）

配布・回収にあたっては、各部局に協力を要請した。

実施が学生が大学へ来ていない時期になってしまったため、教職員・研究員を中心に配布・回収を行ったが、工学研究科・生命環境科学研究科・理学系研究科については、各支援室の協力により、研究室単位で配布することで、理系の大学院生に配布することができた。

配布数：１，６００部　回収数：８０５部（５０.３％）

※実施結果はｐ.５３～、質問票はｐ.７１～参照。

２．全学的意識改革事業

（１）「女性学連続講演会」（平成２２年７月２４日　中百舌鳥キャンパス（学術情報センター　視聴覚室、Ｂ３棟６０５演習室２）にて　３８名参加）

女性学研究センターが主催する女性学連続講演会「越境へのチャレンジ」の第４回目に、本学の女性研究者支援事業の紹介と、先例として京都大学およびイタリア・トリノ大学の事業について紹介した。

＜講演会＞

・「ジェンダーの壁を越える大阪府立大学のチャレンジ」奥野武俊（本学理事長・学長）

・「女性研究者支援の現在：京都大学の取り組み」
　稲葉カヨ（京都大学・女性研究者支援センター長）

・「パネルディスカッション」
　稲葉カヨ（京都大学・女性研究者支援センター長）
　森本睦子（JAXA/JSPEC 特別研究員：本学工学研究科出身）
　奥野武俊（本学理事長・学長）

＜セミナー＞

・「女性研究者の活躍における課題」　　稲葉カヨ（京都大学・女性研究者支援センター長）

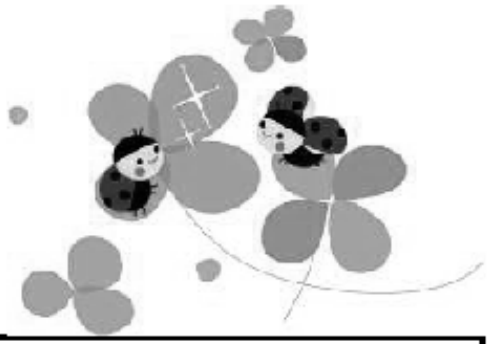
・「イタリア・トリノ大学のチャレンジ」伊田久美子（本学女性学研究センター主任）

女性学連続講演会チラシ（女性研究者支援センター作成分）

「女性研究者支援」って、どんなこと？

今年度から、大阪府立大学では
「元気！活き生き女性研究者 公立大学モデル」を実施します。
これは、理系の女性研究者・院生・学生のため、
＊研究を続けられる環境整備
＊様々なインセンティブの付与
を行い、府大の理系女性研究者を増やしていくプロジェクトです。

これから本学で、女性研究者支援としてどんなことが始まるのか、知りたい方！
女性・男性問わず、ぜひご参加ください。



〈講演会〉「越境へのチャレンジ」（女性学連続講演会　第４回）
７月２４日（土）１３：３０～１５：３０
大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス 学術情報センター（視聴覚室）
定　員　９０名
参加費　５００円　※本学教職員・学生・院生は無料・申込不要

「ジェンダーの壁を越える大阪府立大学のチャレンジ」
奥野　武俊（大阪府立大学学長）

「女性研究者支援の現在：京都大学の取り組み」
稲葉　カヨ（京都大学・女性研究者支援センター長）
京都大学では、２００６年９月に「女性研究者支援センター」を設立するなど、「女性研究者の包括的支援『京都大学モデル』」計画を進めてきました。現在も「男女共同参画推進アクション・プラン」の重点プランの一環として、多くの事業が行われています。

〈セミナー〉講演会の内容を踏まえて問題をさらに掘り下げるため、ゼミ形式で行われます。
７月２４日（土）１６：００～１７：３０
大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス Ｂ３棟６Ｆ（６０５演習室２）
定　員　２０名（先着順：事前申し込み要）
参加費　３００円　※本学教職員・学生・院生は無料

「女性研究者の活躍における課題」
稲葉　カヨ（京都大学・女性研究者支援センター長）

「イタリア・トリノ大学のチャレンジ」
伊田　久美子（本学女性学研究センター主任）

【講演会・セミナー申込】
①氏名（フリガナ）、②所属、③連絡先　（ＴＥＬ、ＦＡＸ、Ｅメールアドレスなど）、④「７月２４日講演会参加希望」、⑤セミナーへの参加希望の有無、を記して、Ｅメールで下記宛にお申し込みください。
＊お申し込みの際の個人情報は、応募後の事務連絡、統計資料等の作成及び本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

大阪府立大学　女性学研究センター　Eメール：joseigaku@gmail.com

（２）授業での事業概要説明

（平成２２年７月２３日、１０月１日～２６日、計１３回、中百舌鳥・りんくうキャンパスにて　のべ４９１名（平均３０～４０名／回）参加）

７月に行った第一回の説明は、２１世紀科学研究機構（工学研究科の授業を担当）の児島千恵特別講師からの申し出による。

当センターのコーディネーターが出向き、授業の終わる前に１０分ほど時間をもらって、学生に対して事業概要について説明をした。男子学生に女性研究者支援事業について説明したのは初めてだったので、「なぜ、女性だけ？」という声があがるかと思っていたが、思った以上に反応が良く、熱心に聞いてくれた。特に保育施設ができる話をしたところ、男女に関係なく反応が良かった。

そのため、後期授業開始前に、理系の工学部・研究科、生命環境科学部・研究科、理学部・研究科に実施協力を呼びかけたところ、１３コマの担当教員が協力を申し出、授業やガイダンスで７月と同様に説明を行った。

講義時間中に、各授業担当の教員から紹介してもらった上で説明を行うことで、学生も耳を傾けてくれた。また、この中から学内保育園名称公募に応募し、当選する学生も出た。

今後は、年度変わりに行われるガイダンスにおいて、各部局が本学のルーチンワークの一部として取り込んでいくよう働きかけていく予定。

（３）ホームページ公開（平成２２年１０月１日～）

本事業について紹介するため、ホームページを公開した。これにより、本事業についての広報や報告をタイムリーに行うことができるようになった。

当初はこれから行う事業の告知が精一杯で、なかなか事業報告まで出来なかったが、平成２３年１月からは広報・情報担当職員を１名雇用し、内容を充実させていった。

女性研究者支援センターＵＲＬ：http://www.opu-genki.jp

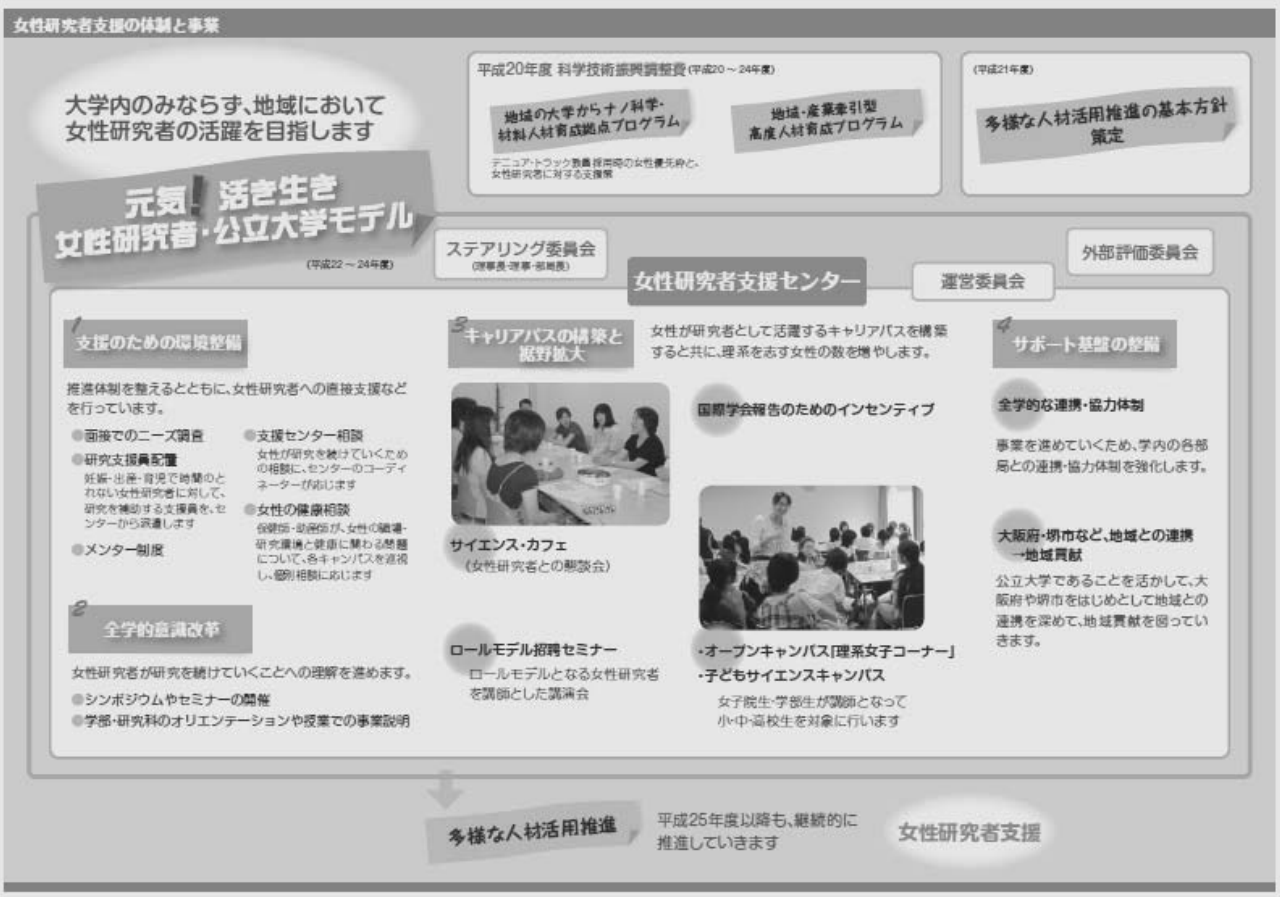
（４）パンフレット発行（平成２２年１１月５日）

本事業について紹介するため、パンフレットを作成した。これにより、本事業の全体像について説明しやすくなった。

また、積極的に活用した結果、当初予定していた数（１，５００部）では足りなくなったため、平成２３年２月に増刷（１，０００部）を行った。

事業紹介パンフレット

元気！活き生き
女性研究者・公立大学モデル
プログラムの目的
理系女性研究者の増加
●事業終了までの3年間で理系女性研究者数を現在の30%アップする。
●理系博士課程を修了する院生の女性比率を25%まで引き上げる。
●理系女性研究者数
30% UP
6%
8%
平成20年度
事業終了時
●理系博士課程を修了する女性院生数
25%に
13.9%
25%
平成20年度
事業終了時
環境整備
●相談窓口・メンター制度・保育室を開設する。
●出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のために研究支援員を配置する。
地域貢献
●ロールモデル・バンクの構築と活用により地域に貢献する。
公立大学法人 大阪府立大学
女性研究者支援センター
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1－1
（中百舌鳥キャンパス　A1棟2F）
TEL・FAX (072) 254-9856
E-mail　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
URL　http://www.opu-genki.jp/
交通アクセス
平成22年度 科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業
元気！活き生き
女性研究者・公立大学モデル
大阪府立大学では、
平成22年度～24年度の3年間、
理系の女性研究者の増加を目指して、
女性研究者・院生・学生のための
支援プログラムを実施しています。
公立大学法人 大阪府立大学
女性研究者支援センター


女性研究者支援の体制と事業
大学内のみならず、地域において
女性研究者の活躍を目指します
元気！活き生き
女性研究者・公立大学モデル
（平成22～24年度）
平成20年度 科学技術振興調整費（平成20～24年度）
地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点プログラム
地域・産業牽引型高度人材育成プログラム
（平成21年度）
多様な人材活用推進の基本方針策定
ステアリング委員会
女性研究者支援センター
運営委員会
外部評価委員会
1 支援のための環境整備
推進体制を整えるとともに、女性研究者への直接支援などを行っています。
●面接でのニーズ調査
●研究支援員配置
●メンター制度
●支援センター相談
●女性の健康相談
2 全学的意識改革
女性研究者が研究を続けていくことへの理解を進めます。
●シンポジウムやセミナーの開催
●学部・研究科のオリエンテーションや授業での事業説明
3 キャリアパスの構築と裾野拡大
女性が研究者として活躍するキャリアパスを構築すると共に、理系を志す女性の数を増やします。
サイエンス・カフェ
（女性研究者との懇談会）
ロールモデル招聘セミナー
ロールモデルとなる女性研究者を講師とした講演会
国際学会報告のためのインセンティブ
・オープンキャンパス「理系女子コーナー」
・子どもサイエンスキャンパス
女子院生・学部生が講師となって小・中・高校生を対象に行います
4 サポート基盤の整備
全学的な連携・協力体制
事業を進めていくため、学内の各部局との連携・協力体制を強化します。
大阪府・堺市など、地域との連携→地域貢献
公立大学であることを活かして、大阪府や堺市をはじめとして地域との連携を深めて、地域貢献を図っていきます。
多様な人材活用推進
平成25年度以降も、継続的に推進していきます
女性研究者支援

（５）ニュースレター発行（平成２２年１１月１２日、平成２３年３月）

本事業の事業概要や現況を広く紹介するため、ニュースレターを２回発行した。

１１月に発行した第１号は事業概要を説明したものとなっていたため、意識改革事業の一環として、本学の教員全員と、工学部・研究科、生命環境科学部・研究科、理学部・研究科の各研究室に所属している学生（４年生以上）と研究員へ配布した。その際には、各研究科の運営委員と支援室が協力して、各研究室の配属人数の把握や研究室への配布を行った。

ここで培った各学部・研究科の支援室とのネットワークは、その後の広報活動に大いに役に立っている。

（６）子育て（応援）バッチ・シール・キャンペーン（平成２３年３月１７日～）

平成２３年４月の学内保育園開園に向けたキャンペーンとして実施した。これは、教職員に「子育て中」「子育て応援」の２種類のピンバッチおよびシール（シールは教職員用の名札に貼付することを想定している）を、その人のライフステージに合わせて配布し身につけてもらうことで、本学内での育児に対する理解と、教職員のワークライフバランスへの配慮を深めるねらいがある。

先に実施した宮崎大学の例をみると、「子育て中」バッジ・シールをつけた教職員同士でネットワークができた、また、学長以下、幹部教職員が「子育て応援」バッジ・シールをつけることで、女性研究者支援事業への理解が深まったとの報告がある。

今後は、「会議は１７時まで」キャンペーンなど、教職員のワークライフバランスを実現できるような意識啓発キャンペーンを合わせて実施していく予定である。

（７）一般公開セミナー（平成２３年３月１９日　中百舌鳥キャンパス(ｻｲｴﾝｽﾎｰﾙ)にて）

「３．キャリアパスの構築と裾野拡大」と兼ねて開催。理系に進路を考えている女子中高校生とその保護者、および本学の理系学部・研究科に所属している女子学生を対象に実施した。裾野拡大事業として、理系で仕事・研究をしている女性の話を聞く機会を設けることで、女子中高生で理系を選択する人を増やし、また、本学の理系女子学生に対して、組織で働く方、起業された方の両方の話を聞くことで、将来のキャリアパスを考える機会とした。

〈講師〉

・東山香子（株式会社エストロラボ　代表取締役）

・松山文佳（三菱電機情報ネットワーク株式会社　フィールドサービス部　関西システム課長）

・黒田桂菜（本学工学研究科　博士後期課程１年：博士前期課程修了後に一旦就職、その後、研究者を目指し博士後期課程に入学）

（８）クリアファイル型パンフレットの配布（平成２３年３月）

本事業を紹介し、その後も手元に置いておいてもらえるよう、事業紹介を掲載したクリアファイルを作成した。これは、学内行事などを利用し、教職員や学部生・大学院生などの本学

関係者、および上記（７）公開セミナーへの参加者に配布した。

３．キャリアパスの構築と裾野拡大

（１）サイエンス・カフェの開催

①第１回（平成２２年６月３０日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１３棟２３０号室）にて　１７名参加）

講師：Ｌｙｄｉｅ　Ｖａｌａｄｅ博士（フランスＣＮＲＳ 錯体化学研究所　副所長）

インタビューおよび懇談会（英語）を実施。理学系研究科の女子大学院生を対象に、メーリングリスト等で広報した。司会進行は理学系研究科の女子大学院生が行った。講師は、本学にアドバイザリーボードとして滞在中であったため、参加者は研究については話をしていたようであるが、私生活について話す機会は少なく、身近に話を聞けて良かったとの感想もあった。また、女性研究者・院生・学生に、本学の女性研究者支援事業について知ってもらう機会となった。

また、名前シールをつけて自己紹介をしたことで、参加者の参加意識がみられた。お茶を飲みながらだったので、リラックスした雰囲気になった。ただ、英語での懇談会であったため、英語が苦手な学生にはわかりにくい場面もあったようである。

サイエンス・カフェ①
（中央がＶａｌａｄｅ博士）

②第２回（平成２２年７月２日　中百舌鳥キャンパス（Ａ１３棟３２３号室）にて　５名参加）

講師：麻生真理子（九州大学大学院　薬学研究院　創薬科学部門　准教授）

インタビューおよび懇談会を実施。理学系研究科の女子大学院生を対象に、メーリングリスト等で広報した。

少人数で身近に女性研究者の話を伺うことで、日頃、研究に追われている研究員・院生・学生に、自分が研究者としてどう生きていくか、私生活も含めて考える良い機会となった。また、女性研究者支援事業について知ってもらう機会となった。

サイエンス・カフェ②
（右から２番目が麻生准教授）

③第３回「CAFÉ･DE･VITA２」（平成２２年１０月１９日　りんくうキャンパスにて　１１名参加）

講師：力久泰子（オハイオ州立大学　獣医学部　教授）

研究職への道、留学について、ポスドクの話やアメリカの大学の話などを、ざっくばらんに学生に話し、意見交換した。講師の話を聞くだけでなく、参加者も自己紹介と将来どうしたいかを話すことで、予定時間をオーバーするほど、たくさんの質問が出て充実した懇話会となった。
りんくうキャンパスにおいては、既に生命環境科学研究科の田島朋子准教授が「CAFÉ･DE･VITA」として、「女性のロールモデルを学生に示す」ということを始めていたため、本事業と共催することとなった。

サイエンス・カフェ③

力石教授

CAFÉ DE VIDA 2 へのお誘い

第２回、Café de vida を開催します。

今回は、東京大学大学院薬学研究科博士課程を修了後、ハーバード大学にポスドクとして渡米、現在、オハイオ州立大学獣医学部教授の、力久泰子先生をお迎えします。

研究職にすすみたいと思っている学部生、大学院生、留学してみたい人、その他諸々、ポスドクの話やアメリカの大学の話、いろいろとうかがえることでしょう。

前回と同様、肩の張らない、気楽な会にしたいと思っています。気軽にのぞいてみてください。

男性も、参加、大歓迎です。

時：10 月 19 日(火)　17:00～18:00 ごろ

場所：1F　会議室

元気！活き生き
女性研究者・公立大学モデル

大阪府立大学
女性研究者支援センター

問い合わせは獣医微生物・田島まで

（２）講演会「『百舌鳥』と『はやぶさ』～私が見た深宇宙探査～」

（平成２２年７月２４日　中百舌鳥キャンパスにて　１４０名参加）

講師：森本睦子（ＪＡＸＡ／ＪＳＰＥＣ特別研究員：本学工学研究科修了）

科学者として携わってきた小惑星探査機「はやぶさ」そして「はやぶさ後継機」への思いと、二児の親として研究とどのように両立させているのか、また、科学を志す後輩へのメッセージを語ってもらった。高校生、一般の方、本学学生等、幅広い人たちに本学の女性研究者支援について知ってもらう機会となった。また、ニュース性のある「はやぶさ」をキーワードに多くの人に集まってもらった上で、女性研究者のロールモデルを示すことができ、当日は新聞社２社の取材を受け、後日その記事が掲載された。

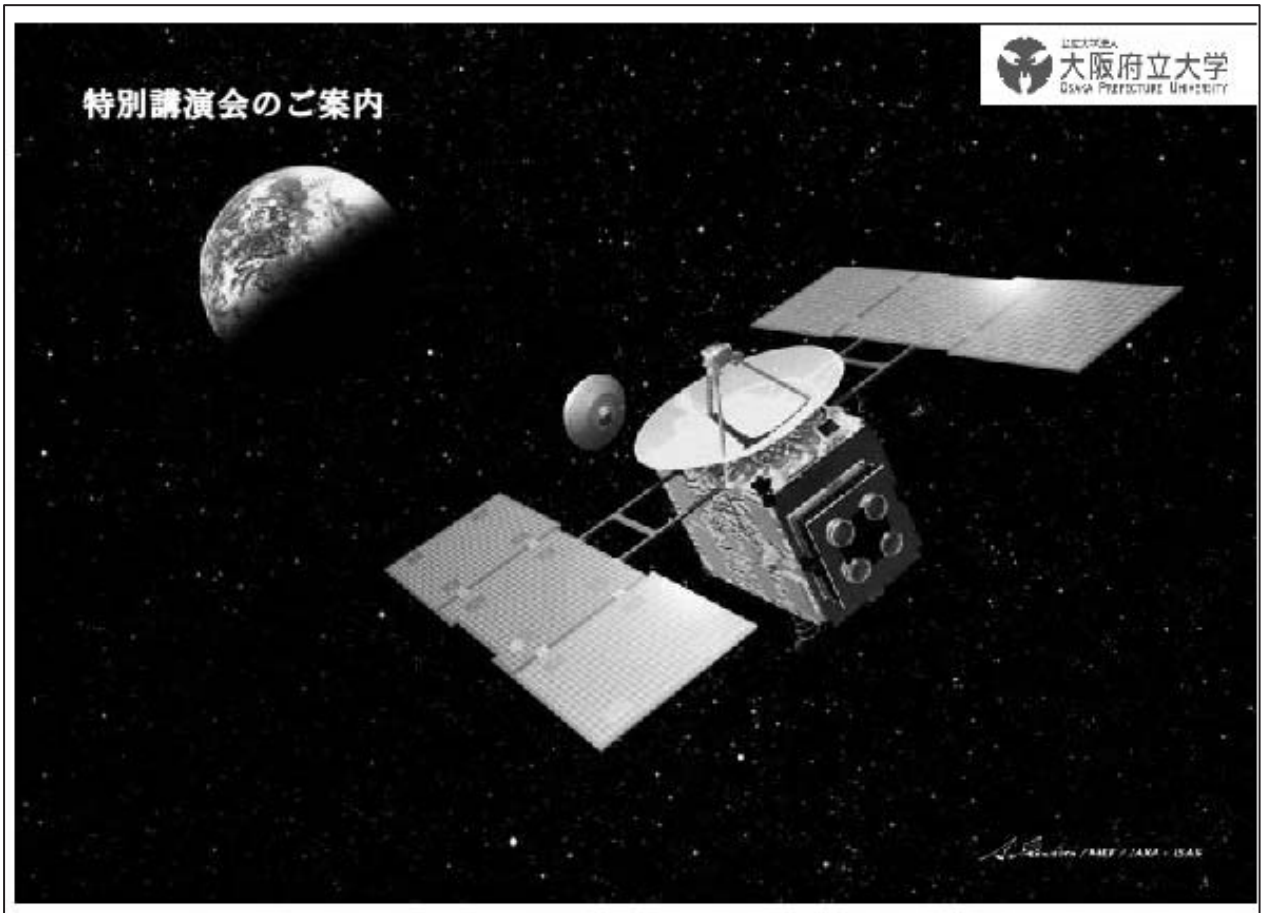
講師の森本さんには、同日午後から行われた女性研究者支援をテーマとした女性学連続講演会にもパネラーとして参加していただいた。また、１１月に発行したニュースレターの「ロールモデル・エッセイ」にも寄稿していただいた。

講師：森本睦子さん

「はやぶさ」講演会

あいさつをする奥野理事長・学長（左）と田間センター長（右）

「はやぶさ」講演会チラシ



百舌鳥（もず） と はやぶさ

～私が見た深宇宙探査～

☆日　時 ： 平成２２年７月２４日（土）午前１１時～１２時３０分

☆場　所 ： 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス　教育棟（Ｂ３棟）１階１１７号教室

☆対　象 ： 府立大学学生、高校生、教職員　（定員２００名）

☆講　師 ： 森 本　睦 子 氏　JAXA/JSPEC（日本学術振興会）特別研究員

（森本様のご略歴は裏面参照）

☆主　催 ： 大阪府立大学（女性研究者支援センター）　協力：エクステンション・センター

６０億キロメートルの旅の末、劇的な地球帰還を果たした小惑星探査機「はやぶさ」
その運用現場で活躍するひとりの府立大学卒業生がいた。
小惑星探査機“はやぶさ”の運用に、スーパーバイザーとして携わってこられた一方、二児の母親でもある、本学工学研究科ご卒業の森本睦子さんにお越しいただき、“はやぶさ”そして“はやぶさ後継機”への思いと、これから「科学」を志す後輩への熱いメッセージを語っていただきます。

お申し込み方法：

裏面の様式に必要事項をご記入の上、ファックスでお申し込みください。
また、メールでお申し込みの方は、申込用紙と同じ項目を列記の上、裏面のアドレスまでお願いします。

「はやぶさ」運用にかかわった府大ＯＧ

母校で講演「得意分野持って」

今年6月、地球帰還を果たした小惑星探査機「はやぶさ」の運用に、かかわった府立大（堺市中区）出身の森本睦子さん(33)が、母校で講演。学生や市民ら約200人に、好きなこと、得意分野を持つことの大切さなどを訴えた。

森本さんは、府立大を卒業後、大手家電メーカーに就職したが、宇宙への夢をあきらめきれず退社。宇宙航空研究開発機構（JAXA）の惑星探査プログラムグループの一員として「はやぶさ」の運用にかかわり、「はやぶさ」の状態チェックや運行指示などを行った。

講演で、森本さんは、帰還当日の管制室の写真を交えて、役割を分担しながら「はやぶさに指示を送っている様子を紹介した。「一人ひとりが責任を果たし、それぞれが支え合うことでミッションが達成できている」と話した。

学生らは「現場では、どういう人物が求められているのか」など質問。森本さんは「JAXAに入ることだけで満足してしまう若い人もいる。宇宙のことが好きであることが重要。得意な分野があるといい」などアドバイスを送っていた。

母校で「はやぶさ」について講演する森本睦子さん　堺市中区の府立大中百舌鳥キャンパス

産経新聞

（平成 22 年 7 月 27 日朝刊）

はやぶさ「希望くれた」

運用責任者の森本さん

小惑星探査機「はやぶさ」が7年ぶりに地球に帰還した日に探査機の軌道や動作を修正するスーパーバイザー（運用責任者）を務めた森本睦子さん(33)が24日、母校の府立大学（堺市）で講演＝写真＝、理系を目指す女子高校生、大学生ら約100人が耳を傾けた。（阿久沢悦子）

母校府立大で講演

森本さんは府立大工学部航空宇宙工学科卒。松下電工に勤めたが、宇宙への夢をあきらめ切れず、退職して総合研究大学院に進み、2007年に宇宙航空研究開発機構（JAXA）の研究員になった。今年2月に長女を出産。産休明けで4月から職場復帰し、6月13日のはやぶさの帰還に立ち会った。

「帰還は、人はここまでできるんだという希望を私に与えてくれた」

次世代機「はやぶさ2」の開発にも携わっている。宇宙開発は、幅広い職種の人材が認め合い、感謝し合って成り立っているのが魅力だと強調し、「はやぶさが切り開いた新しい技術を、次の世代につなげたい」と語った。

朝日新聞（平成 22 年 7 月 25 日朝刊）

（３）裾野拡大事業

①オープン・キャンパス「めざせ！理系女子コーナー：先輩と話そう」

（平成２２年８月７日～８日　中百舌鳥キャンパス（学術交流会館　小ホール）にて　１３０名参加）

理系に興味がある女子高校生・受験生を対象に、小グループでの懇話会形式で、現役の本学女子院生・学部生が、自分の研究内容や大学生活について紹介し、高校生・受験生の質問に答えた。広報としては、事前には本学 Web サイトのオープン・キャンパス案内に掲載した。また、当日の午前中に行われた工学部や理学部の説明会で、他の資料と一緒にチラシを配布すると共に、学生が壇上に上がってアピールした。

女子ばかり集まったということ、お茶を飲みながら行ったことで、リラックスした雰囲気になり、具体的に色々と質問しやすかったようである。なかには、「理系女子コーナー」のためだけにオープン・キャンパスに来たという高校生もいた。

また、質問に答えた学生たちも、日頃は男子が多いところで研究しているのが当たり前となっているが、これから自分の分野を目指そうという女子高校生・受験生が多かったことが、とても嬉しく、今後の励みになったようである。

ただ、こちらの想定以上の多数の高校生・受験生が来場したため、来場者数に対して会場が狭く、色々な学部の話を聞きたい高校生・受験生が移動しにくかった。また、グループによっては人数が多すぎて、質問しにくくなっているところもあったため、来年度はさらに広い場所の確保が必要である。さらに、保護者の来場も多く、手があいていた院生に、急遽、保護者対応として自分の経験等を話してもらったところ、理系に娘を進ませることに不安を抱いている保護者に大変好評であった。そのため、次回実施の際には、最初から保護者対応の院生を確保する必要がある。

また後日、高校生から本学学生へ「受験勉強のやる気が出た。頑張って大阪府立大学に入りたい」という感謝のメールが届いた。

オープン・キャンパス「理系女子コーナー」

楽しそうな雰囲気に仲間に入りたいと、男子学部生の飛び入り参加もあった　→

めざせ！理系女子コーナー 先輩と話そう

in 大阪府立大学 オープンキャンパス２０１０

理系に興味はあるけど どの学部に進んだらいい？

理系の大学生活ってどんなの？

理系って男子が多そう。女子でも大丈夫？

理系の女性ってどんなところに就職してる？ほかの進路は？

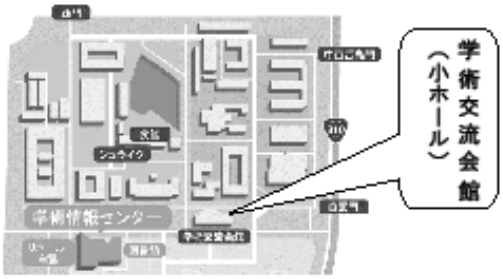
そんなあなたのお悩みに 現役の理系女子大学生・院生が、お答えします！

８月７日（土）・８日（日）
１２：００～１２：４０

場所　学術交流会館 小ホール

対象　理系に興味がある 女子高校生・受験生

保護者の方も一緒にどうぞ



お問い合わせ
大阪府立大学
女性研究者支援センター
Tel・Fax（０７２）２５４－９８５６）
（月）～（金）９：００～１７：４５

②子どもサイエンス・キャンパスｉｎ白鷺祭（平成２２年１１月６日　中百舌鳥キャンパス（Ｂ３棟）にて　５４名参加）

本学工学研究科　杉村延広教授によるお話とビデオの後、工学部・研究科の女子大学院生・学部生が、子どもたちに太陽電池を使った科学工作キット「ソーラー・バッタ」の組み立ての指導を行い、ものづくりの楽しさを伝えた。

事前申込は少なかったが、学園祭「白鷺祭」内の企画として行ったため、当日に来学している親子に声をかけることにより、多数の参加となった。

子どもサイエンス・キャンパス

上：杉村教授のお話

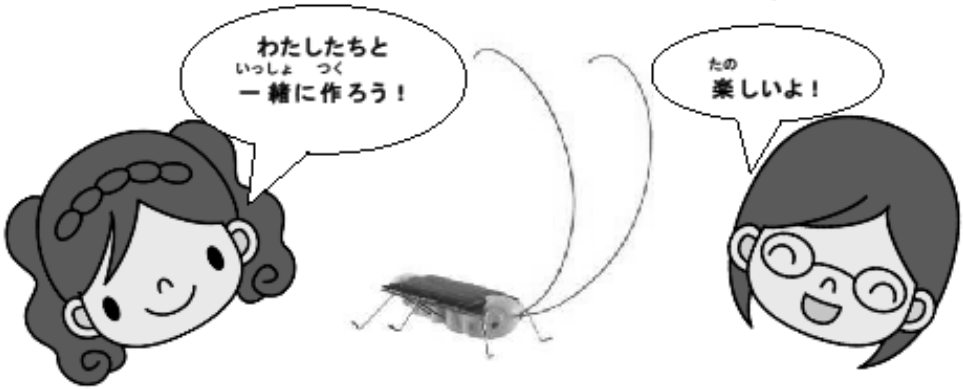
中：子どもたちを指導する女子大学院生・学部生

下：出来上がったソーラー・バッタで遊ぶ子どもたち

子どもサイエンスキャンパス

光の不思議！

作って動かす楽しい「ソーラーバッタ」



大学生のおねえさんたちと一緒に、
太陽の光で動くソーラーバッタを作ってみませんか？
大学の先生から、ものづくりについてのお話も聞けますよ!!

日　時　平成２２年１１月６日（土）
　　１回目　１１：００～１２：００
　　２回目　１４：００～１５：００

参加費　無　料

対　象　小学３年生～６年生　各回１５名
　　※保護者の方も一緒に参加できます。
　　事前申込の人を優先します。

場　所　大阪府立大学　中百舌鳥キャンパス
　　Ｂ３棟　３階　３０７教室

講　師　杉村　延広（工学系研究科教授）

※当日は、白鷺祭（学園祭）期間中のため、自転車の構内への乗り入れを制限しています。公共交通機関をご利用ください。

＜お申込・お問い合わせ＞
大阪府立大学　女性研究者支援センター
電話/Fax：（０７２）２５４－９８５６（月～金１０時～１７時）
メール：w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
ホームページ：http://www.opu-genki.jp

元気！活き生き 女性研究者・公立大学モデル
堀野拡大事業

③クリスマス会へのブース参加（平成２２年１２月２３日　中百舌鳥キャンパス（学術交流会館　多目的ホール）にて　５０名参加）

本学のボランティア・センターが主催するクリスマス会に、「おもしろ理科実験」と題して、ブース参加した。ボランティア・センターの呼びかけにより、当日は本学の近隣の小学生が来場した。

ブースでは、工学部・研究科の女子大学院生・学部生が、子どもたちに科学実験キット（スライム作り、立方体の万華鏡）を用いて、科学のおもしろさを伝えた。特に、スライム作りは人気があり、順番待ちの行列ができるほどであった。

クリスマス会「おもしろ理科実験」ブース

←　スライム作りを指導する女子学生

４．サポート基盤の整備

（１）Webカメラ付パソコンの貸出（平成２３年１月２０日～）

女性研究者（教員）が在宅勤務する場合に、自宅から学生の教育指導・研究実験の指示・会議参加などができるよう、Webカメラ付パソコンの貸し出しを行った。今年度は希望した２名に対して、各２台（自宅用と学内用）、計４台のパソコンを貸し出している。

５．保育室設置・運営（補助対象外事業）

（１）大阪府立大学事業所内保育施設開設準備委員会

本学に学内保育園を建設・運営するため、準備委員会を設置した。

この委員会では、保育施設の運営事業者の募集・選定、利用希望者への説明会の開催、利用希望者の募集と審査、保育施設の名称公募と決定などを行った。

今年度は下記の日程で開催されたが、利用者の二次募集時の審査は、メール会議にて行われた。

第１回　平成２２年　８月１０日
第２回　　９月　９日
第３回　　９月１９日
第４回　　９月２９日
第５回　　１１月　８日

〈保育施設の運営事業者の募集と選定スケジュール〉

平成２２年８月１２日	募集要項の公表
８月１６日～２０日	質疑受付
８月２５日	質疑回答
９月　３日	応募資料提出締切
９月　９日	書類審査
９月１５日	プレゼンテーション
９月１５日・２１日	プレゼンテーションを行った事業者に対して現場視察
９月２９日	最終審査、事業者決定

〈保育園申込状況〉

通常保育申込　一次募集　６名申込　５名に許可
二次募集　２名申込　１名に許可予定　（現在も募集中）
入園予定　６名（近隣の認可保育園等への併願者も含む）
※許可を出さなかった一次募集１名、二次募集１名は同一人物。理由は、保護者の内１名が無職であり、利用規程に合わなかったため。

（２）保育施設利用説明会（平成２２年１０月１５日・１８日　中百舌鳥キャンパス（学術交流会館　多目的ホール）にて：羽曳野キャンパス、りんくうキャンパスには同時中継　１２名の参加）

平成２３年度４月に開園予定の学内保育園について、利用日時、料金等について説明。事業委託業者となった社会福祉法人コスモスも参加し、子どもたちの保育園での生活などについて説明を行った。

（３）保育施設名称の公募

学内保育園の名称を学内公募し、保育施設開設準備委員会で審査した結果、「つばさ保育園」と決定した。この「つばさ保育園」を提案した学生へ、記念品を授与した。

〈保育施設名称　公募スケジュール〉

平成２２年１０月１５日～２９日	教職員へのメール、学内ウェブ、ポスター掲示などで広報し、募集
１１月　８日	保育施設開設準備委員会で審査、決定

	学内ウェブにて、保育園名称決定のお知らせ
１１月３０日	提案した学生へ、記念品授与
	贈呈式の様子を学内ウェブへ掲載

（４）学内保育施設「つばさ保育園」一時保育のニーズ調査（平成２３年１月２０日～２月４日）
つばさ保育園では、利用者が定員の１０名に達しない場合は、定員までの範囲内で一時保育（１日単位）を行う予定にしている。この調査機関は通常保育の二次募集中であったが、一時保育の問い合わせも多かったため、利用希望者の事前登録を実施する前に、ニーズ調査を行った。今回の調査では、６件の利用希望があった。

６．インセンティブ制度（補助対象外事業）

（１）「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰
国際学会等への参加を促すことで、国際的に活躍する若手女性研究者を育成する目的で実施した。
今年度は、来年度８月までに国際学会等で発表予定の理系女子大学院生（生命環境科学部獣医学科５、６年生を含む）を対象に募集・審査を行った。最終審査は公開審査会とし、最優秀・優秀者を決定した。最優秀・優秀者には、来年度の国際学会等への旅費等の支援を行う。

募集　平成２２年１２月２８日～平成２３年度１月２１日
審査　一次：書類審査
　　最終：公開審査会における英語によるプレゼンテーション
　　（平成２３年２月２３日　中百舌鳥キャンパス（Ｂ３棟１１７教室）にて）
支援金額：最優秀者（１名）　１５万円まで
　　優秀者（５名まで）　５万円まで

〈応募状況〉
工学研究科　３名、生命環境科学研究科　１名

〈審査結果〉
最優秀賞　黒田　桂菜　（工学研究科　博士後期課程１年）

優秀賞　上野　未貴　（工学研究科　博士前期課程１年）
　　川本　乃理子（生命環境科学研究科　博士前期課程１年）
　　松本　祐依　（工学研究科　博士前期課程１年）

「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰募集ポスター

世界に翔け！
理系女子大学院生
表彰制度のお知らせ

女性研究者支援システム改革プログラム「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」の一環として、理系女子大学院生の国際学会活動を支援するための表彰制度を創設しました。
たくさんのご応募をお待ちしています。

１．　対象者

平成２３年４月１日現在、大阪府立大学大学院の工学研究科、生命環境科学研究科、理学系研究科、および生命環境科学部獣医学科５、６年生に在学する女性で、以下のいずれかの条件を満たす者。

① 平成２３年度８月までに開催される国内外の国際学会・セミナー・研究会等（以下、「国際会議」という）に発表の申込を行った者。

② 平成２２年度に国内外の国際会議で発表し、その後の研究の進展内容を平成２３年８月までに開催される国際会議で発表することを希望し、申込を予定している者。

※平成２３年９月以降の参加分については、来年度募集予定。

２．　表彰の方法

表彰状を授与するとともに、副賞として以下の費用の補助を行います。

① 最優秀賞１名　国際会議の旅費および参加費の補助として１５万円
（旅費と参加費の実費額合計が１５万円以下の場合はその額）

② 優秀賞　５名まで　国際会議の旅費および参加費の補助として各５万円
（旅費と参加費の実費額合計が５万円以下の場合はその額）

３．　申請受付期間

平成２２年１２月２８日（火）～平成２３年１月２１日（金）（必着）

４．　審査について

第一次審査：書類審査
最終審査：公開選考会における英語によるプレゼンテーション審査
（２月２３日（水）中百舌鳥キャンパスにて）

※応募方法などの詳細は、女性研究者支援センター・ホームページ、または大阪府立大学ポータル・サイトをご覧ください。

お問い合わせ先　女性研究者支援センター
TEL/FAX（０７２）２５４－９８５６　内線２７５８
ホームページ　http://www.opu-genki.jp

「世界に翔け！理系女子大学院生」公開審査会および表彰式ポスター

平成 22 年度

世界に翔け！理系女子大学院生 公開審査会 および 表彰式

昨年末より募集しておりました、
「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰制度の
公開審査会と表彰式を行います。
今後の研究活動の参考に、また次回の応募の参考に、
多数の方のご参加をお待ちしております。

日時 2月23日（水） 9:30 ～ 12:00

場所 中百舌鳥キャンパス B3 棟117 教室

事前の申し込みは不要です。

PROGRAM

9:30~ 9:40 開会挨拶
奥野武俊（理事長・学長）
田間泰子（女性研究者支援センター長・人間社会学部教授）

9:40~10:40 最終審査／応募者によるプレゼンテーション（英語）

10:40~11:40 プレゼンテーションに対する講評
21世紀科学研究機構 ナノ科学・材料研究センター特別講師
牧浦理恵、小菅厚子、床波志保

11:40~11:55 審査結果発表と表彰

11:55~12:00 閉会挨拶
安保正一（理事・副学長）

！ 9月以降に国際学会等で発表予定の方の募集は、
来年度春に行う予定です。

「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰制度とは、国際的に活躍する若手女性研究者の育成のために行っているもので、優秀者には来年度の国際学会などへの旅費等の支援をします。

問い合わせ先：女性研究者支援センター
（中百舌鳥キャンパスA1棟2F）
TEL/FAX 072-254-9856 内線 2758
E-mail：w-support@ao.osakafu-u.ac.jp

７．地域連携

（１）大阪府男女共同参画審議会（平成２２年９月２７日　大阪府公館にて　１５名参加）

第２６回大阪府男女共同参画審議会にて、男女共同参画審議会委員ほかに対して、本事業の概要説明を行った。その結果、来年度の大阪府の男女共同参画基本計画の重点分野の一つとして「あらゆる分野への男女共同参画の推進」を入れ、その一部に具体的に理工系分野の女性人材の育成を書き込む方向となった。この基本計画の推進体制は、「オール大阪」として行政・企業・諸団体・大学等との連携を謳う予定であるので、本事業についても連携の一端を担うかたちで取組むよう、協力体制を確認した。審議会構成員には在阪企業の方も加わっておられ、本事業の「地域連携」を具体的に展開していくことについて、了解を得ることができた。

その成果として、第一に、大阪府男女共同参画審議会答申（平成２３年１月）において、女子の理系選択等、本学の支援事業を視野に入れた内容を入れていただいた。第二に、審議会構成員であるシャープ株式会社から、本学出身の理系女性をロールモデルとしてご紹介いただいた。

（２）キックオフ・シンポジウム（前掲）

シンポジウム開催にあたっては、大阪府府民文化部男女共同参画・ＮＰＯ課、および同部大学課の協力により、府知事からのメッセージを府民文化部長に代読していただくことができ、後援をいただいた。また、本学中百舌鳥キャンパスのある堺市については、堺市市民部男女共同参画推進課の協力により、市長からのメッセージを副市長に代読していただくことができ、後援をいただいた。これをきっかけとして、今後もさまざまに連携することとした。

また、大阪府立大学の三つの同窓会組織については、田間センター長と巽コーディネーターが各会長に事業説明を行い、ご賛同を得て出席もしくはメッセージをいただいた。そしてこれをきっかけとして、今後もさまざまに連携することとした。

８．その他

（１）(株)科学新聞社の取材

（平成２３年３月４日、大阪府立大学にて）

全国で実施されている「女性研究者支援モデル育成」採択校の１つとして、事業内容について、田間センター長が取材を受けた。記事は４月に掲載予定。

９．平成２２年度学内アンケート結果

（１）回答者の属性

問1性別 と 問5キャンパス と 問3職種 のｸﾛｽ表

問3職種				問5キャンパス 中百舌鳥	羽曳野	りんくう	合計
職員	問1性別	女性	度数	183	11	8	202
			問1性別 の %	90.6%	5.4%	4.0%	100.0%
		男性	度数	94	5	3	102
			問1性別 の %	92.2%	4.9%	2.9%	100.0%
	合計		度数	277	16	11	304
			問1性別 の %	91.1%	5.3%	3.6%	100.0%
研究職	問1性別	女性	度数	23	23	1	47
			問1性別 の %	48.9%	48.9%	2.1%	100.0%
		男性	度数	95	3	4	102
			問1性別 の %	93.1%	2.9%	3.9%	100.0%
	合計		度数	118	26	5	149
			問1性別 の %	79.2%	17.4%	3.4%	100.0%
研究員	問1性別	女性	度数	4			4
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
		男性	度数	2			2
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
	合計		度数	6			6
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
大学院生(後期課程)	問1性別	女性	度数	3			3
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
		男性	度数	24			24
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
	合計		度数	27			27
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
大学院生(前期、修士課程)	問1性別	女性	度数	33	8		41
			問1性別 の %	80.5%	19.5%		100.0%
		男性	度数	284	1		285
			問1性別 の %	99.6%	.4%		100.0%
	合計		度数	317	9		326
			問1性別 の %	97.2%	2.8%		100.0%
学部生	問1性別	女性	度数	6			6
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
		男性	度数	23			23
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
	合計		度数	29			29
			問1性別 の %	100.0%			100.0%
科目履修生	問1性別	女性	度数		1		1
			問1性別 の %		100.0%		100.0%
	合計		度数		1		1
			問1性別 の %		100.0%		100.0%

問1性別

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	女性	315	36.0	36.6	36.6
	男性	545	62.4	63.4	100.0
	合計	860	98.4	100.0	
欠損値	88	14	1.6		
合計		874	100.0		

問2年齢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	10歳代	2	.2	.2	.2
	20歳代	425	48.6	48.9	49.1
	30歳代	124	14.2	14.3	63.4
	40歳代	156	17.8	18.0	81.4
	50歳代以上	162	18.5	18.6	100.0
	合計	869	99.4	100.0	
欠損値	88	5	.6		
合計		874	100.0		

問3職種

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	職員	309	35.4	36.2	36.2
	研究職	155	17.7	18.2	54.4
	研究員	6	.7	.7	55.1
	大学院生(後期課程)	27	3.1	3.2	58.3
	大学院生(前期、修士課程)	326	37.3	38.2	96.5
	学部生	29	3.3	3.4	99.9
	科目履修生	1	.1	.1	100.0
	合計	853	97.6	100.0	
欠損値	88	21	2.4		
合計		874	100.0		

問3－1雇用形態

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	常勤	247	28.3	51.6	51.6
	非常勤	232	26.5	48.4	100.0
	合計	479	54.8	100.0	
欠損値	88	395	45.2		
合計		874	100.0		

問4専門分野

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	工学系	365	41.8	60.4	60.4
	理学系	126	14.4	20.9	81.3
	生命環境科学系	43	4.9	7.1	88.4
	保健医療・看護系	39	4.5	6.5	94.9
	人文・社会科学系	25	2.9	4.1	99.0
	その他	6	.7	1.0	100.0
	合計	604	69.1	100.0	
欠損値	88	270	30.9		
合計		874	100.0		

問5キャンパス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	中百舌鳥	799	91.4	91.9	91.9
	羽曳野	53	6.1	6.1	98.0
	りんくう	17	1.9	2.0	100.0
	合計	869	99.4	100.0	
欠損値	88	5	.6		
合計		874	100.0		

（2）さまざまな事業・政策等の認知度について

問6－1多様な人材活用推進

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	21	2.4	2.4	2.4
	ある程度知っている	109	12.5	12.7	15.1
	知らない	731	83.6	84.9	100.0
	合計	861	98.5	100.0	
欠損値	88	13	1.5		
合計		874	100.0		

問6－1－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	95	10.9	65.1	65.1
	該当	51	5.8	34.9	100.0
	合計	146	16.7	100.0	
欠損値	88	728	83.3		
合計		874	100.0		

問6－1－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	131	15.0	89.7	89.7
	該当	15	1.7	10.3	100.0
	合計	146	16.7	100.0	
欠損値	88	728	83.3		
合計		874	100.0		

問6－1－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	122	14.0	83.6	83.6
	該当	24	2.7	16.4	100.0
	合計	146	16.7	100.0	
欠損値	88	728	83.3		
合計		874	100.0		

問6－1－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	143	16.4	97.9	97.9
	該当	3	.3	2.1	100.0
	合計	146	16.7	100.0	
欠損値	88	728	83.3		
合計		874	100.0		

問6－1－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	112	12.8	76.7	76.7
	該当	34	3.9	23.3	100.0
	合計	146	16.7	100.0	
欠損値	88	728	83.3		
合計		874	100.0		

問6－1－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	129	14.8	88.4	88.4
	該当	17	1.9	11.6	100.0
	合計	146	16.7	100.0	
欠損値	88	728	83.3		
合計		874	100.0		

問6－2元気！活き活き女性研究者

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	54	6.2	6.3	6.3
	ある程度知っている	206	23.6	23.9	30.1
	知らない	603	69.0	69.9	100.0
	合計	863	98.7	100.0	
欠損値	88	11	1.3		
合計		874	100.0		

問6－2－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	166	19.0	61.7	61.7
	該当	103	11.8	38.3	100.0
	合計	269	30.8	100.0	
欠損値	88	605	69.2		
合計		874	100.0		

問6－2－2情報源（マスメディア）

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	非該当	266	30.4	98.5	98.5
	該当	4	.5	1.5	100.0
	合計	270	30.9	100.0	
欠損値	88	604	69.1		
合計		874	100.0		

問6－2－3情報源（教員などから）

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	非該当	216	24.7	80.0	80.0
	該当	54	6.2	20.0	100.0
	合計	270	30.9	100.0	
欠損値	88	604	69.1		
合計		874	100.0		

問6－2－4情報源（授業で）

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	非該当	267	30.5	98.9	98.9
	該当	3	.3	1.1	100.0
	合計	270	30.9	100.0	
欠損値	88	604	69.1		
合計		874	100.0		

問6－2－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	非該当	149	17.0	55.2	55.2
	該当	121	13.8	44.8	100.0
	合計	270	30.9	100.0	
欠損値	88	604	69.1		
合計		874	100.0		

問6－2－6情報源（その他）

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	非該当	243	27.8	90.0	90.0
	該当	27	3.1	10.0	100.0
	合計	270	30.9	100.0	
欠損値	88	604	69.1		
合計		874	100.0		

問6－3女性研究者支援センター

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	よく知っている	73	8.4	8.6	8.6
	ある程度知っている	338	38.7	39.7	48.3
	知らない	440	50.3	51.7	100.0
	合計	851	97.4	100.0	
欠損値	88	23	2.6		
合計		874	100.0		

問6－3－1情報源（大学HP）

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	非該当	255	29.2	63.0	63.0
	該当	150	17.2	37.0	100.0
	合計	405	46.3	100.0	
欠損値	88	469	53.7		
合計		874	100.0		

問6－3－2情報源（マスメディア）

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	非該当	400	45.8	98.8	98.8
	該当	5	.6	1.2	100.0
	合計	405	46.3	100.0	
欠損値	88	469	53.7		
合計		874	100.0		

問6－3－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	321	36.7	79.3	79.3
	該当	84	9.6	20.7	100.0
	合計	405	46.3	100.0	
欠損値	88	469	53.7		
合計		874	100.0		

問6－3－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	402	46.0	99.3	99.3
	該当	3	.3	.7	100.0
	合計	405	46.3	100.0	
欠損値	88	469	53.7		
合計		874	100.0		

問6－3－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	234	26.8	57.8	57.8
	該当	171	19.6	42.2	100.0
	合計	405	46.3	100.0	
欠損値	88	469	53.7		
合計		874	100.0		

問6－3－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	347	39.7	85.7	85.7
	該当	58	6.6	14.3	100.0
	合計	405	46.3	100.0	
欠損値	88	469	53.7		
合計		874	100.0		

問6－4学内保育園

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	159	18.2	18.3	18.3
	ある程度知っている	469	53.7	54.1	72.4
	知らない	239	27.3	27.6	100.0
	合計	867	99.2	100.0	
欠損値	88	7	.8		
合計		874	100.0		

問6－4－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	355	40.6	58.8	58.8
	該当	249	28.5	41.2	100.0
	合計	604	69.1	100.0	
欠損値	88	270	30.9		
合計		874	100.0		

問6－4－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	594	68.0	98.3	98.3
	該当	10	1.1	1.7	100.0
	合計	604	69.1	100.0	
欠損値	88	270	30.9		
合計		874	100.0		

問6－4－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	451	51.6	74.7	74.7
	該当	153	17.5	25.3	100.0
	合計	604	69.1	100.0	
欠損値	88	270	30.9		
合計		874	100.0		

問6－4－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	601	68.8	99.5	99.5
	該当	3	.3	.5	100.0
	合計	604	69.1	100.0	
欠損値	88	270	30.9		
合計		874	100.0		

問6－4－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	401	45.9	66.4	66.4
	該当	203	23.2	33.6	100.0
	合計	604	69.1	100.0	
欠損値	88	270	30.9		
合計		874	100.0		

問6－4－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	508	58.1	84.1	84.1
	該当	96	11.0	15.9	100.0
	合計	604	69.1	100.0	
欠損値	88	270	30.9		
合計		874	100.0		

問6－5女性研究者支援センター相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	39	4.5	4.5	4.5
	ある程度知っている	183	20.9	21.3	25.8
	知らない	638	73.0	74.2	100.0
	合計	860	98.4	100.0	
欠損値	88	12	1.4		
	システム欠損値	2	.2		
	合計	14	1.6		
合計		874	100.0		

問6－5－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	162	18.5	69.5	69.5
	該当	71	8.1	30.5	100.0
	合計	233	26.7	100.0	
欠損値	88	641	73.3		
合計		874	100.0		

問6－5－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	232	26.5	99.6	99.6
	該当	1	.1	.4	100.0
	合計	233	26.7	100.0	
欠損値	88	641	73.3		
合計		874	100.0		

問6－5－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	196	22.4	84.1	84.1
	該当	37	4.2	15.9	100.0
	合計	233	26.7	100.0	
欠損値	88	641	73.3		
合計		874	100.0		

問6－5－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	232	26.5	99.6	99.6
	該当	1	.1	.4	100.0
	合計	233	26.7	100.0	
欠損値	88	641	73.3		
合計		874	100.0		

問6－5－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	132	15.1	56.7	56.7
	該当	101	11.6	43.3	100.0
	合計	233	26.7	100.0	
欠損値	88	641	73.3		
合計		874	100.0		

問6－5－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	198	22.7	85.0	85.0
	該当	35	4.0	15.0	100.0
	合計	233	26.7	100.0	
欠損値	88	641	73.3		
合計		874	100.0		

問6－6女性の健康相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	39	4.5	4.5	4.5
	ある程度知っている	199	22.8	23.0	27.5
	知らない	629	72.0	72.5	100.0
	合計	867	99.2	100.0	
欠損値	88	7	.8		
合計		874	100.0		

問6－6－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	169	19.3	71.3	71.3
	該当	68	7.8	28.7	100.0
	合計	237	27.1	100.0	
欠損値	88	637	72.9		
合計		874	100.0		

問6－6－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	234	26.8	98.7	98.7
	該当	3	.3	1.3	100.0
	合計	237	27.1	100.0	
欠損値	88	637	72.9		
合計		874	100.0		

問6－6－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	200	22.9	84.4	84.4
	該当	37	4.2	15.6	100.0
	合計	237	27.1	100.0	
欠損値	88	637	72.9		
合計		874	100.0		

問6－6－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	237	27.1	100.0	100.0
欠損値	88	637	72.9		
合計		874	100.0		

問6－6－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	135	15.4	57.0	57.0
	該当	102	11.7	43.0	100.0
	合計	237	27.1	100.0	
欠損値	88	637	72.9		
合計		874	100.0		

問6－6－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	200	22.9	84.4	84.4
	該当	37	4.2	15.6	100.0
	合計	237	27.1	100.0	
欠損値	88	637	72.9		
合計		874	100.0		

問6－7研究支援員の配置

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	30	3.4	3.6	3.6
	ある程度知っている	117	13.4	14.2	17.8
	知らない	677	77.5	82.2	100.0
	合計	824	94.3	100.0	
欠損値	88	50	5.7		
合計		874	100.0		

問6－7－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	120	13.7	73.6	73.6
	該当	43	4.9	26.4	100.0
	合計	163	18.6	100.0	
欠損値	88	711	81.4		
合計		874	100.0		

問6－7－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	162	18.5	99.4	99.4
	該当	1	.1	.6	100.0
	合計	163	18.6	100.0	
欠損値	88	711	81.4		
合計		874	100.0		

問6－7－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	122	14.0	74.8	74.8
	該当	41	4.7	25.2	100.0
	合計	163	18.6	100.0	
欠損値	88	711	81.4		
合計		874	100.0		

問6－7－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	161	18.4	98.8	98.8
	該当	2	.2	1.2	100.0
	合計	163	18.6	100.0	
欠損値	88	711	81.4		
合計		874	100.0		

問6－7－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	121	13.8	74.2	74.2
	該当	42	4.8	25.8	100.0
	合計	163	18.6	100.0	
欠損値	88	711	81.4		
合計		874	100.0		

問6－7－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	139	15.9	85.3	85.3
	該当	24	2.7	14.7	100.0
	合計	163	18.6	100.0	
欠損値	88	711	81.4		
合計		874	100.0		

問6－8表彰制度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	53	6.1	6.4	6.4
	ある程度知っている	200	22.9	24.2	30.6
	知らない	574	65.7	69.4	100.0
	合計	827	94.6	100.0	
欠損値	88	47	5.4		
合計		874	100.0		

問6－8－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	180	20.6	69.8	69.8
	該当	78	8.9	30.2	100.0
	合計	258	29.5	100.0	
欠損値	88	616	70.5		
合計		874	100.0		

問6－8－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	254	29.1	98.4	98.4
	該当	4	.5	1.6	100.0
	合計	258	29.5	100.0	
欠損値	88	616	70.5		
合計		874	100.0		

問6－8－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	214	24.5	82.9	82.9
	該当	44	5.0	17.1	100.0
	合計	258	29.5	100.0	
欠損値	88	616	70.5		
合計		874	100.0		

問6－8－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	256	29.3	99.2	99.2
	該当	2	.2	.8	100.0
	合計	258	29.5	100.0	
欠損値	88	616	70.5		
合計		874	100.0		

問6－8－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	149	17.0	57.8	57.8
	該当	109	12.5	42.2	100.0
	合計	258	29.5	100.0	
欠損値	88	616	70.5		
合計		874	100.0		

問6－8－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	224	25.6	87.2	87.2
	該当	33	3.8	12.8	100.0
	合計	257	29.4	100.0	
欠損値	88	617	70.6		
合計		874	100.0		

問6－9女性研究者支援センター主催「サイエンス・カフェ」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	32	3.7	3.7	3.7
	ある程度知っている	200	22.9	23.2	26.9
	知らない	631	72.2	73.1	100.0
	合計	863	98.7	100.0	
欠損値	88	11	1.3		
合計		874	100.0		

問6－9－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	169	19.3	70.1	70.1
	該当	72	8.2	29.9	100.0
	合計	241	27.6	100.0	
欠損値	88	633	72.4		
合計		874	100.0		

問6－9－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	237	27.1	98.3	98.3
	該当	4	.5	1.7	100.0
	合計	241	27.6	100.0	
欠損値	88	633	72.4		
合計		874	100.0		

問6－9－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	204	23.3	84.6	84.6
	該当	37	4.2	15.4	100.0
	合計	241	27.6	100.0	
欠損値	88	633	72.4		
合計		874	100.0		

問6－9－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	241	27.6	100.0	100.0
欠損値	88	633	72.4		
合計		874	100.0		

問6－9－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	129	14.8	53.5	53.5
	該当	112	12.8	46.5	100.0
	合計	241	27.6	100.0	
欠損値	88	633	72.4		
合計		874	100.0		

問6－9－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	204	23.3	84.6	84.6
	該当	37	4.2	15.4	100.0
	合計	241	27.6	100.0	
欠損値	88	633	72.4		
合計		874	100.0		

問6－10ニューズレター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	30	3.4	3.5	3.5
	ある程度知っている	153	17.5	17.7	21.1
	知らない	683	78.1	78.9	100.0
	合計	866	99.1	100.0	
欠損値	88	8	.9		
合計		874	100.0		

問6－10－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	148	16.9	78.3	78.3
	該当	41	4.7	21.7	100.0
	合計	189	21.6	100.0	
欠損値	88	685	78.4		
合計		874	100.0		

問6－10－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	186	21.3	98.4	98.4
	該当	3	.3	1.6	100.0
	合計	189	21.6	100.0	
欠損値	88	685	78.4		
合計		874	100.0		

問6－10－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	168	19.2	88.9	88.9
	該当	21	2.4	11.1	100.0
	合計	189	21.6	100.0	
欠損値	88	685	78.4		
合計		874	100.0		

問6－10－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	188	21.5	99.5	99.5
	該当	1	.1	.5	100.0
	合計	189	21.6	100.0	
欠損値	88	685	78.4		
合計		874	100.0		

問6－10－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	72	8.2	38.1	38.1
	該当	117	13.4	61.9	100.0
	合計	189	21.6	100.0	
欠損値	88	685	78.4		
合計		874	100.0		

問6－10－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	175	20.0	92.6	92.6
	該当	14	1.6	7.4	100.0
	合計	189	21.6	100.0	
欠損値	88	685	78.4		
合計		874	100.0		

問6－11数値目標

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	34	3.9	3.9	3.9
	ある程度知っている	88	10.1	10.1	14.1
	知らない	745	85.2	85.9	100.0
	合計	867	99.2	100.0	
欠損値	88	7	.8		
合計		874	100.0		

問6－11－1情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	112	12.8	77.8	77.8
	該当	32	3.7	22.2	100.0
	合計	144	16.5	100.0	
欠損値	88	730	83.5		
合計		874	100.0		

問6－11－2情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	140	16.0	97.2	97.2
	該当	4	.5	2.8	100.0
	合計	144	16.5	100.0	
欠損値	88	730	83.5		
合計		874	100.0		

問6－11－3情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	104	11.9	72.2	72.2
	該当	40	4.6	27.8	100.0
	合計	144	16.5	100.0	
欠損値	88	730	83.5		
合計		874	100.0		

問6－11－4情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	144	16.5	100.0	100.0
欠損値	88	730	83.5		
合計		874	100.0		

問6－11－5情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	91	10.4	63.2	63.2
	該当	53	6.1	36.8	100.0
	合計	144	16.5	100.0	
欠損値	88	730	83.5		
合計		874	100.0		

問6－11－6情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	122	14.0	84.7	84.7
	該当	22	2.5	15.3	100.0
	合計	144	16.5	100.0	
欠損値	88	730	83.5		
合計		874	100.0		

問6自由記述

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	860	98.4	98.6	98.6
	該当	12	1.4	1.4	100.0
	合計	872	99.8	100.0	
欠損値	88	2	.2		
合計		874	100.0		

問7-1第3期科学技術 基本計画

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	18	2.1	2.1	2.1
	ある程度知っている	88	10.1	10.2	12.3
	知らない	758	86.7	87.7	100.0
	合計	864	98.9	100.0	
欠損値	88	10	1.1		
合計		874	100.0		

問7－1－1情報源（政府HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	89	10.2	69.5	69.5
	該当	39	4.5	30.5	100.0
	合計	128	14.6	100.0	
欠損値	88	746	85.4		
合計		874	100.0		

問7－1－2情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	118	13.5	92.2	92.2
	該当	10	1.1	7.8	100.0
	合計	128	14.6	100.0	
欠損値	88	746	85.4		
合計		874	100.0		

問7－1－3情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	72	8.2	56.3	56.3
	該当	56	6.4	43.8	100.0
	合計	128	14.6	100.0	
欠損値	88	746	85.4		
合計		874	100.0		

問7－1－4情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	112	12.8	87.5	87.5
	該当	16	1.8	12.5	100.0
	合計	128	14.6	100.0	
欠損値	88	746	85.4		
合計		874	100.0		

問7－1－5情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	128	14.6	100.0	100.0
欠損値	88	746	85.4		
合計		874	100.0		

問7－1－6情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	123	14.1	96.9	96.9
	該当	4	.5	3.1	100.0
	合計	127	14.5	100.0	
欠損値	88	747	85.5		
合計		874	100.0		

問7－1－7情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	118	13.5	92.9	92.9
	該当	9	1.0	7.1	100.0
	合計	127	14.5	100.0	
欠損値	88	747	85.5		
合計		874	100.0		

問7－2第3次男女共同参画基本計 画

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	15	1.7	1.7	1.7
	ある程度知っている	149	17.0	17.2	19.0
	知らない	700	80.1	81.0	100.0
	合計	864	98.9	100.0	
欠損値	88	10	1.1		
合計		874	100.0		

問7－2－1情報源（政府HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	152	17.4	84.0	84.0
	該当	29	3.3	16.0	100.0
	合計	181	20.7	100.0	
欠損値	88	693	79.3		
合計		874	100.0		

問7－2－2情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	170	19.5	93.9	93.9
	該当	11	1.3	6.1	100.0
	合計	181	20.7	100.0	
欠損値	88	693	79.3		
合計		874	100.0		

問7－2－3情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	85	9.7	47.0	47.0
	該当	96	11.0	53.0	100.0
	合計	181	20.7	100.0	
欠損値	88	693	79.3		
合計		874	100.0		

問7－2－4情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	178	20.4	98.3	98.3
	該当	3	.3	1.7	100.0
	合計	181	20.7	100.0	
欠損値	88	693	79.3		
合計		874	100.0		

問7－2－5情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	162	18.5	89.5	89.5
	該当	19	2.2	10.5	100.0
	合計	181	20.7	100.0	
欠損値	88	693	79.3		
合計		874	100.0		

問7－2－6情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	170	19.5	93.9	93.9
	該当	11	1.3	6.1	100.0
	合計	181	20.7	100.0	
欠損値	88	693	79.3		
合計		874	100.0		

問7－2－7情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	167	19.1	92.3	92.3
	該当	14	1.6	7.7	100.0
	合計	181	20.7	100.0	
欠損値	88	693	79.3		
合計		874	100.0		

問7－3女性差別撤廃条約

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	28	3.2	3.2	3.2
	ある程度知っている	223	25.5	25.8	29.1
	知らない	612	70.0	70.9	100.0
	合計	863	98.7	100.0	
欠損値	88	11	1.3		
合計		874	100.0		

問7－3－1情報源（政府HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	228	26.1	87.7	87.7
	該当	32	3.7	12.3	100.0
	合計	260	29.7	100.0	
欠損値	88	614	70.3		
合計		874	100.0		

問7－3－2情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	247	28.3	95.0	95.0
	該当	13	1.5	5.0	100.0
	合計	260	29.7	100.0	
欠損値	88	614	70.3		
合計		874	100.0		

問7－3－3情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	118	13.5	45.4	45.4
	該当	142	16.2	54.6	100.0
	合計	260	29.7	100.0	
欠損値	88	614	70.3		
合計		874	100.0		

問7－3－4情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	254	29.1	97.7	97.7
	該当	6	.7	2.3	100.0
	合計	260	29.7	100.0	
欠損値	88	614	70.3		
合計		874	100.0		

問7－3－5情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	211	24.1	81.2	81.2
	該当	49	5.6	18.8	100.0
	合計	260	29.7	100.0	
欠損値	88	614	70.3		
合計		874	100.0		

問7－3－6情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	250	28.6	96.2	96.2
	該当	10	1.1	3.8	100.0
	合計	260	29.7	100.0	
欠損値	88	614	70.3		
合計		874	100.0		

問7－3－7情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	241	27.6	92.7	92.7
	該当	19	2.2	7.3	100.0
	合計	260	29.7	100.0	
欠損値	88	614	70.3		
合計		874	100.0		

問7－4女性研究者支援システム改革

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	15	1.7	1.7	1.7
	ある程度知っている	101	11.6	11.7	13.4
	知らない	747	85.5	86.6	100.0
	合計	863	98.7	100.0	
欠損値	88	11	1.3		
合計		874	100.0		

問7－4－1情報源（政府HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	110	12.6	82.7	82.7
	該当	23	2.6	17.3	100.0
	合計	133	15.2	100.0	
欠損値	88	741	84.8		
合計		874	100.0		

問7－4－2情報源（大学HP）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	106	12.1	79.7	79.7
	該当	27	3.1	20.3	100.0
	合計	133	15.2	100.0	
欠損値	88	741	84.8		
合計		874	100.0		

問7－4－3情報源（マスメディア）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	106	12.1	79.7	79.7
	該当	27	3.1	20.3	100.0
	合計	133	15.2	100.0	
欠損値	88	741	84.8		
合計		874	100.0		

問7－4－4情報源（教員などから）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	119	13.6	89.5	89.5
	該当	14	1.6	10.5	100.0
	合計	133	15.2	100.0	
欠損値	88	741	84.8		
合計		874	100.0		

問7－4－5情報源（授業で）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	130	14.9	97.7	97.7
	該当	3	.3	2.3	100.0
	合計	133	15.2	100.0	
欠損値	88	741	84.8		
合計		874	100.0		

問7－4－6情報源（女性研究者支援センター）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	90	10.3	67.7	67.7
	該当	43	4.9	32.3	100.0
	合計	133	15.2	100.0	
欠損値	88	741	84.8		
合計		874	100.0		

問7－4－7情報源（その他）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	129	14.8	97.0	97.0
	該当	4	.5	3.0	100.0
	合計	133	15.2	100.0	
欠損値	88	741	84.8		
合計		874	100.0		

問8自由記述

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	705	80.7	80.8	80.8
	該当	167	19.1	19.2	100.0
	合計	872	99.8	100.0	
欠損値	88	2	.2		
合計		874	100.0		

（3）支援の利用希望(ウェブアンケートのみ)

問9－1利用したい支援：両立のための 相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	24	2.7	66.7	66.7
	該当	12	1.4	33.3	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－2利用したい支援：メンター制度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	29	3.3	80.6	80.6
	該当	7	.8	19.4	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－3利用したい支援：勤務時間・授業担当への配慮

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	27	3.1	75.0	75.0
	該当	9	1.0	25.0	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－4利用したい支援：研究補助員などの雇用

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	29	3.3	80.6	80.6
	該当	7	.8	19.4	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－5利用したい支援：在宅勤務への配慮

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	28	3.2	77.8	77.8
	該当	8	.9	22.2	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－6利用したい支援：オムツをかえることができるトイレ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	33	3.8	91.7	91.7
	該当	3	.3	8.3	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－7利用したい支援：授乳などのスペース

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	33	3.8	91.7	91.7
	該当	3	.3	8.3	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－8利用したい支援：入所待機児童のための 保育室

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	31	3.5	86.1	86.1
	該当	5	.6	13.9	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－9利用したい支援：一時保育ができる保育室

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	30	3.4	83.3	83.3
	該当	6	.7	16.7	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－10利用したい支援：学童保育サービス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	29	3.3	80.6	80.6
	該当	7	.8	19.4	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－11利用したい支援：学外保育サービス支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	32	3.7	88.9	88.9
	該当	4	.5	11.1	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－12利用したい支援：その他の両立支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	16	1.8	44.4	44.4
	該当	20	2.3	55.6	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問9－13利用したい支援：その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	34	3.9	94.4	94.4
	該当	2	.2	5.6	100.0
	合計	36	4.1	100.0	
欠損値	88	838	95.9		
合計		874	100.0		

問10アンケート回収方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	配布	838	95.9	95.9	95.9
	web	36	4.1	4.1	100.0
	合計	874	100.0	100.0	

大阪府立大学　教職員・院生支援のためのアンケート調査

2011 年２月９日
女性研究者支援センター
Tel　072-254-9856（内線 2758）

大阪府立大学では、平成 22 年度から 3 年間、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援システム改革」に採択され、女性研究者支援センターを立ち上げて、『元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル』を実施しています。この支援は、女性研究者を支援するだけでなく、全構成員が本学で仕事・勉学と家庭生活・個人生活を両立しやすい環境整備を目指しています。

このアンケートは、支援をより良い形で実施するために、みなさんのご意見をうかがうものです。ご協力をどうぞよろしくお願いします。回答の取り扱いにおいては個人情報保護法を遵守します。結果については、統計処理した数量的結果のみを女性研究者支援センターのホームページに掲載し、支援の改善以外の目的には使用しません。

問１　あなたの性別をお答えください　（　　）

問２　あなたの年齢をお答えください（○は１つ）

1．10 歳代　　2．20 歳代　　3．30 歳代　　4．40 歳代　　5．50 歳代以上

問３　あなたの現在の職種をお答えください（○は１つ）

1．職員（事務系・技術系ほか）
2．研究職（教授・准教授・講師・助教・助手ほか）
3．研究員（ポスドク）
4．大学院生（博士後期課程）
5．大学院生（博士前期課程・修士課程）
6．学部生
7．科目履修生

問４　あなたの現在の雇用形態をお答えください（○は１つ）

1．常勤　　2．非常勤

問５　あなたの現在の専門分野について、次の中から最も近いものを１つお選びください

1．工学系　　2．理学系　　3．生命環境科学系（獣医学を含む）　　4．保健医療・看護学系　　5．人文科学・社会科学系　　6．その他（　　）

問 6　あなたが主として働く（学ぶ）キャンパスをお答えください

1．中百舌鳥　　2．羽曳野　　3．りんくう

問 7　次の支援のなかから、利用したいとお考えのものをお答えください（いくつでも選んでください）

1．仕事・研究と家庭責任の両立のための相談窓口
2．女性研究者のキャリアのためのメンター制度
3．産前産後や乳幼児がいる場合の、勤務時間や授業担当への配慮
4．産前産後や乳幼児がいる場合の、研究補助員・事務補助員の雇用
5．産前産後や乳幼児がいる場合の、在宅勤務への配慮
6．オムツをかえることができるトイレ
7．授乳や搾乳等ができるスペース
8．保育所への入所待機児童のための保育室
9．一時保育を行う保育室
10．学童保育サービス
11．学外での保育にかかわるサービスへの支援（バウチャーの発行など）
12．その他、仕事・勉学と介護等の家庭責任・個人生活を両立させるための支援
13．その他（　　）

問 8　「女性差別撤廃条約」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→**「問 10」へ**

問 9　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．政府のホームページ　　2．ホームページ　　3．新聞記事などマスメディアから
4．教員・職員・学生（院生含む）から　　5．学校の授業で　　6．女性研究者支援センターのイベント・ニューズレター・学内のお知らせ・チラシ・ポスター・授業での説明などから　　7．その他（　　）

問 10　「第 3 次男女共同参画基本計画（案）」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→**「問 12」へ**

問 11　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．政府のホームページ　　2．大学のホームページ　　3．新聞記事などマスメディアから
4．教員・職員・学生（院生含む）から　　5．学校の授業で　　6．女性研究者支援センターのイベント・ニューズレター・学内のお知らせ・チラシ・ポスター・授業での説明などから　　7．その他（　　）

問 12　「第 3 期科学技術基本計画」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→「問 14」へ

問 13　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．政府のホームページ　　2．大学のホームページ　　3．新聞記事などマスメディアから　4．教員・職員・学生（院生含む）から　　5．学校の授業で　　6．女性研究者支援センターのイベント・ニューズレター・学内のお知らせ・チラシ・ポスター・授業での説明などから　　7．その他（　　）

問 14　「女性研究者支援システム改革プログラム（文部科学省）」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→「問 16」へ

問 15　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．政府のホームページ　　2．大学のホームページ　　3．新聞記事などマスメディアから　4．教員・職員・学生（院生含む）から　　5．学校の授業で　　6．女性研究者支援センターのイベント・ニューズレター・学内のお知らせ・チラシ・ポスター・授業での説明などから　　7．その他（　　）

問 16　「大阪府立大学女性研究者支援センター」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→「問 18」へ

問 17　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　　2．新聞記事などマスメディアから　　3．教員・職員・学生（院生含む）から　　4．学校の授業で　　5．女性研究者支援センターのニューズレター　　6．女性研究者支援センターのイベント　　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　　9．女性研究者支援センターのホームページ　　10．その他（　　）

問 18　「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→「問 20」へ

問 19　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　　2．新聞記事などマスメディアから　　3．教員・職員・学生（院生含む）から　　4．学校の授業で　　5．女性研究者支援センターのニューズレター　　6．女性研究者支援センターのイベント　　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　　9．女性研究者支援センターのホームページ　　10．その他（　　）

問 20　「多様な人材活用推進の基本方針」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→「問 22」へ

問 21　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　　2．新聞記事などマスメディアから　　3．教員・職員・学生（院生含む）から　　4．学校の授業で　　5．女性研究者支援センターのニューズレター　　6．女性研究者支援センターのイベント　　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　　9．女性研究者支援センターのホームページ　　10．その他（　　）

問 22　「学内保育園（つばさ保育園）の開設（平成 23 年 4 月 1 日）」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→「問 24」へ

問 23　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　　2．新聞記事などマスメディアから　　3．教員・職員・学生（院生含む）から　　4．学校の授業で　　5．女性研究者支援センターのニューズレター　　6．女性研究者支援センターのイベント　　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　　9．女性研究者支援センターのホームページ　　10．その他（　　）

問 24　「女性研究者支援センター相談窓口」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→「問 26」へ

問 25　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　　2．新聞記事などマスメディアから　　3．教員・職員・学生（院生含む）から　　4．学校の授業で　　5．女性研究者支援センターのニューズレター　　6．女性研究者支援センターのイベント　　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　　9．女性研究者支援センターのホームページ　　10．その他（　　）

問 26　「女性の健康相談窓口」をご存知ですか

1．よく知っている　　2．ある程度知っている　　3．知らない→「問 28」へ

問 27　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　2．新聞記事などマスメディアから　3．教員・職員・学生（院生含む）から　4．学校の授業で　5．女性研究者支援センターのニューズレター　6．女性研究者支援センターのイベント　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　9．女性研究者支援センターのホームページ　10．その他（　　）

問 28　「女性研究者支援センター主催の「サイエンス・カフェ」」をご存知ですか

1．よく知っている　2．ある程度知っている　3．知らない→「問 30」へ

問 29　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　2．新聞記事などマスメディアから　3．教員・職員・学生（院生含む）から　4．学校の授業で　5．女性研究者支援センターのニューズレター　6．女性研究者支援センターのイベント　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　9．女性研究者支援センターのホームページ　10．その他（　　）

問 30　「女性研究者支援センター発行のニューズレター」をご存知ですか

1．よく知っている　2．ある程度知っている　3．知らない→「問 32」へ

問 31　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　2．新聞記事などマスメディアから　3．教員・職員・学生（院生含む）から　4．学校の授業で　5．女性研究者支援センターのニューズレター　6．女性研究者支援センターのイベント　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　9．女性研究者支援センターのホームページ　10．その他（　　）

問 32　「理系女性研究者増加のための数値目標(ミッションステートメント)」 をご存知ですか－大阪府立大学では平成 22 年度~24 年度の 3 年間、理系女性研究者増加のための数値目標（理系女性研究者数を現在の 30%アップ、理系博士課程修了院生の女性比率 25%まで引き上げ）を設定しています。

1．よく知っている　2．ある程度知っている　3．知らない→「問 34」へ

問 33　どこで知りましたか（いくつでも選んでください）

1．大学のホームページから　2．新聞記事などマスメディアから　3．教員・職員・学生（院生含む）から　4．学校の授業で　5．女性研究者支援センターのニューズレター　6．女性研究者支援センターのイベント　7．女性研究者支援センターの授業での説明から　8．女性研究者支援センターのポスター・チラシなどから　9．女性研究者支援センターのホームページ　10．その他（　　）

問 34　上記以外で、女性研究者支援センターが行っている事業を知っていますか

問 35　その他、教育・研究を進めていくうえで、障害となっていること、あれば良いと思う環境設備、サービス、支援などがあれば記入してください

御協力ありがとうございました。
２０１０年２月に実施した全学アンケートの結果については、女性研究者支援センターのホームページ（http://www.　のあとに　opu-genki.jp）からアクセスして御覧になれます。

Ⅲ．外部評価

元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」
外部評価委員会
平成２２年度　評価（総評）

Ⅰ．総合評価

Ｓ：特に優秀　　Ａ：優　　Ｂ：良　　Ｃ：可　　Ｄ：不可　　Ｘ：不明

評価	A

評価理由

理事長の下に、女性研究者支援システム改革ステアリング委員会を設けて統括を行い、女性研究者支援センターを設立して、職員を含む運営委員会での事業企画・管理を、コーディネーターと 3 名の支援員が遂行するという明確な組織が構築されている。さらに事業の業務量の増加に伴い情報・広報担当職員を別途配すると共に、補助対象事業以外に、学内経費を投じた支援にも積極的に取り組む姿勢が見える。

本年度計画された事業は、1.支援のための環境整備、2.意識改革事業の実施、３.キャリアパスの構築と裾野拡大、４.サポート基盤の整備と補助対象外の 5.保育室の設置ならびに 6.インセンティブ制度の制定・実施である。

支援のための環境整備事業として位置づけられているセンター相談窓口や健康相談窓口など利用者が少ない事業があり、また、ロールモデル・バンクの構築と活用など目指すところの意味は大きいものの、協力が十分に得られていないものもあるが、予定中のものも含めて、事業開始初年度としては、十分な事業が推進されつつある。とりわけ、裾野拡大事業（オープン・キャンパス、子どもサイエンス・キャンパス、クリスマス会）や講演会「『百舌鳥』と『はやぶさ』～私が見た深宇宙探査～」など、外部へのＰＲには熟練の感があり、成果があがっている。また、キャリアパスの構築にも熱心に取り組まれている。

補助対象外のインセンティブ制度として、女子大学院生の国際学会等での発表を支援することを決めて、実施しつつある。また、H23 年 4 月からの学内保育所「つばさ保育園」の開園に向けて、保育申し込みの募集も行い、定員に満たない場合の一時保育の検討が開始されているなど、来年度の事業の実施に向けた動きも明確で、さらなる成果が期待される。

Ⅱ．所見

事業が盛りだくさんであることから、期間中の目標達成のためには、より計画的かつ全学的な取組が必要であり、そのためにも学内外の理解を得ることに加えて、卒業生・修了生の同窓会ならびに地域との連携の強化の推進が望まれる。

とりわけ、公立大学としての役割は大きく、これまでも、大阪府の受託事業としての就労支援、ワークライフバランスに関する大学生・府民意識調査や西日本ダーバーシティ研究会に参加する企業とのセミナー共催など大阪府や企業との連携がなされては来ているが、今後は、行政機関としての大阪府や堺市、この地域の企業との定期的な協議の場を設けるなど、積極的な交流を深めた事業展開が望まれる。

本プログラムの中心的課題は、理系女性研究者の育成および比率の向上にある。しかし、その中で、教職員を対象とした「子育て（応援）バッジ・シール・キャンペーン」が企画されており、全学的な取組も見られる。この視点は非常に重要であり、男女共同参画は男女両性の理解のもとに進められるべきものであると考えられる。その意味で、将来的には、理系にとどまらず、全学的な男女構成員を対象とした事業として展開されるべきであり、研究者支援、院生・学生支援にまでその効果が波及するような事業展開を期待している。とりわけ、女性にとっては、ロールモデルの提示は重要な意味を持っており、学内の女性研究者ネットワークの形成に力を注ぐ必要があり、さらには、院生・学生の声を聞く機会やそれを事業に反映させるしくみの開発が望まれる。

＜その他＞

評価用紙と報告書に記載されている実施事業内容の順序が統一されていることが望ましい。また、報告書には目次が付されていると、読みやすくなる。

ホームページの公開とあるが、大阪府立大の HP から検索してもセンターの HP に到達することは容易ではなかったことから、改善が望まれる。

ミッション・ステートメントとして、事業終了時までの 3 年間における理系女性研究者数を申請時の 140 名（19%）を 30%アップさせることを目指すとあり、また、理系博士課程を修了する女性院生比率を現在の 3 年間平均 18.1% を 25%まで引き上げるとあるが、これらについての今年度の状況についての記載が報告書には見あたらない。実施期間中の数値をグラフ化して記入すべきではないか。

事業報告書作成後に予定されている事業もあり、これらを含めて評価するには、無理があると思われる。そのため、評価項目欄に X（不明）とされるものが散見された。正式にこの事業報告書が何時発行されるのかは不明であるが、予定でありながら既に実施済みであるかのような記載は改めた方がよい。22 年度の報告書であるから実際の報告書の発行日を 3 月末として、実施項目については、追加記載してはどうか。

１（５）の女性研究者ヒアリング調査について、これを基に研究支援員の配置や在宅就業支援のための Web カメラ付きパソコンの貸し出しが実施されたとあるが、ヒアリング調査の内容や結果の詳細についての記載はなく、これ以外のものについての要望等が今後本事業にどのように反映されていくのかが不明である。

Ⅳ．要綱・要項・規程・要領

１．　科学技術振興調整費大阪府立大学採択プログラム実施要綱
２．　大阪府立大学女性研究者支援センター要項
３．　「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム運営委員会運営要領
４．　女性研究者支援センター相談窓口運営規程
５．　「大阪府立大学・元気！活き生きロールモデルバンク」運用規程
６．　女性研究者支援センター「女性の健康相談窓口」運営規程
７．　「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム　理系女子大学院生への表彰およびインセンティブ付与実施要領
８．　大阪府立大学「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム　外部評価委員会運営要領

科学技術振興調整費大阪府立大学採択プログラム実施要綱

（目的）

第１条　公立大学法人大阪府立大学における科学技術振興調整費「若手研究者養成システム改革」の２件の採択課題「若手研究者の自立的研究環境整備促進：地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」及び「イノベーション創出若手研究人材養成：地域・産業牽引型高度人材育成プログラム」（以下「若手プログラム」という。）並びに「女性研究者支援システム改革」の採択課題「女性研究者支援モデル育成：元気！活き生き女性研究者・公立大学モデルプログラム」（以下「女性プログラム」という。）の円滑な実施のため、実施体制、実施方法等を定めるものである。

（ステアリング委員会の設置）

第２条　前条のプログラムを推進するため、大阪府立大学科学技術振興調整費「若手研究者養成システム改革」ステアリング委員会及び「女性研究者支援システム改革」ステアリング委員会（以下「ステアリング委員会」という。）を設置する。

２　ステアリング委員会は、プログラムの実施方針を決定し、全学的取り組みの体制を整備するとともに、それぞれのプログラムの実施責任者（プログラム・オフィサー）を選任する。

（組織等）

第３条　ステアリング委員会の委員は、別表の職にある者及びプログラム・オフィサーとする。

２　ステアリング委員会には、委員長を置き、理事長の職にある者をもって充てる。

３　委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

４　会議は、委員長が必要に応じて招集し、議長を務める。

５　委員長は、必要に応じて委員会にプログラム関係者の出席を求めることができる。

（プログラムの実施）

第４条　若手プログラムのうち、「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」は２１世紀科学研究機構「ナノ科学・材料研究センター」を中心に、「地域・産業牽引型高度人材育成プログラム」は同機構「産学協同高度人材育成センター」を中心に、女性プログラムは「女性研究者支援センター」を中心に実施する。

（運営委員会）

第５条　ステアリング委員会の決定に基づき、プログラムの実施計画を策定し、実行するため、プログラムごとに運営委員会を設置する。

２　運営委員会には、運営委員長を置き、副運営委員長を置くことができる。

３　運営委員長は、運営委員会を主宰する。

４　運営委員長及び副運営委員長の選任その他運営委員会の運営等については別に定める。

（運営委員会の委員）
第６条　運営委員会の委員は、ステアリング委員会の委員の推薦によりステアリング委員会委員長が選任する。
２　運営委員会の委員は、ステアリング委員会委員長に申し出ることにより、辞任することができる。

（運営委員会委員の役割）
第７条　運営委員会の委員は、運営委員会に出席し、プログラムの運営方法等の協議を行うとともに、プログラムの実施を担当する。

（ワーキンググループ）
第８条　運営委員会には、分野ごとの調査、検討を行うため必要に応じて運営委員会委員その他の関係者によるワーキンググループを設置することができる。

（評価委員会）
第９条　プログラムの実施を評価するため、プログラムごとに評価委員会を設置する。
２　その他評価委員会の運営等については別に定める。

（事務局）
第１０条　プログラムの実施及びステアリング委員会等の事務を行うため、若手プログラムは２１世紀科学研究機構室に、女性プログラムは総務部総合調整室に事務局を置く。

（その他）
第１１条　この要綱に定めるもののほか、プログラムの実施に関して必要な事項は、ステアリング委員会の承認を得て、委員長が定める。

附　則
この要綱は、平成２０年７月１日から施行する。
この要綱は、平成２１年４月１日から施行する。
この要綱は、平成２２年６月１６日から施行する。

別　表

委員会	「若手研究者養成システム改革」 ステアリング委員会	「女性研究者支援システム改革」 ステアリング委員会
委　員	理事長 学術・研究担当理事 教務・学生担当理事 産学官連携・社会貢献担当理事 総務担当理事 経営担当理事 工学研究科長	理事長 学術・研究担当理事 教務・学生担当理事 産学官連携・社会貢献担当理事 総務担当理事 経営担当理事 工学研究科長

	生命環境科学研究科長 理学系研究科長 経済学部長 人間社会学部長 看護学部長 総合リハビリテーション学部長 総合教育研究機構長 学術情報センター長 産学官連携機構長 21 世紀科学研究機構長 学生センター長	生命環境科学研究科長 理学系研究科長 経済学部長 人間社会学部長 看護学部長 総合リハビリテーション学部長 総合教育研究機構長 学術情報センター長 産学官連携機構長 21 世紀科学研究機構長 学生センター長

大阪府立大学女性研究者支援センター要項

第１条　大阪府立大学に、女性研究者支援センター（以下「センター」という。）を置く。

第２条　センターは優れた女性研究者の育成のための有効な方策等についての調査研究を行うとともに、出産・育児の支援、その他女性研究者の支援に関する業務を行う。

第３条　センターにはセンター長を置き、センター長は「女性研究者支援モデル育成：元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラムの実施責任者（プログラム・オフィサー）をもって充てる。
２．センター長は、センターの所務を掌理する。

第４条　センターに、教員その他の職員を置くことができる。

第５条　センターの管理運営に関する事項は「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム運営委員会が審議する。

第６条　センターの事務は、総務部総合調整室において処理する。

附　則

この要項は、平成 22 年 6 月 16 日から施行する。

「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム
運営委員会運営要領

（目的）
第１条　「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデルプログラム」（以下「プログラム」という。）の実施にあたり、科学技術振興調整費大阪府立大学採択プログラム実施要綱第５条第４項に基づき、「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム運営委員会（以下「運営委員会」という。）の運営に関して、細目を定めるものである。

（運営委員会の業務）
第２条　運営委員会の業務は次のとおりとする。
（１）プログラムの実施計画の策定及び実施
（２）プログラムの実施に必要な施設・設備の整備計画の策定及び運用
（３）その他プログラム実施のための企画調整

（運営委員会の開催）
第３条　運営委員会は、運営委員長が必要に応じて招集し、議長を務める。
２　運営委員長は、プログラム・オフィサーが行う。
３　副運営委員長は、運営委員長が指名し、運営委員長に事故あるときは運営委員長を代行する。

（庶務）
第４条　運営委員会の庶務は、総務部総合調整室が行う。

附　則
この要領は、平成 22 年 6 月 16 日から施行する。

女性研究者支援センター相談窓口運営規程

(設置目的)

１．　本学の女性を支援するため、女性研究者支援センターに相談窓口を設置する。

(対象)

２．　相談窓口は、女性教職員(本学で雇用されている者)および女子学生(本学に学籍を置く者)の相談を受け付ける。また、保育室の利用に関しては、対応する窓口となり、女性に限らず、本学の教職員および学生の申込み等を受け付ける。

(相談内容)

３．　相談内容は下記のとおりとする。

- 妊娠・出産・育児と仕事・勉学の両立について
- メンター制度の利用について
- 専門相談員(保健師)の利用について
- 保育室の利用について
- その他

(対応者)

４．　相談窓口は、女性研究者支援センターのコーディネーターが対応する。コーディネーターは相談内容に応じ、相談者の了解の下、教員・メンター・保健師などの専門家と連携して相談にあたる。

(開設時間)

５．　相談窓口の開設時間は、センター長が別に定める。

(守秘義務)

６．　コーディネーターほか、相談業務に携わって相談者の個人情報を知り得た者は、相談者本人の了解なく、それを他に漏らしてはならない。

(報告義務)

７．　コーディネーターは相談内容を、個人情報の守秘に十分に留意したうえで、運営委員会に報告しなければならない。

(附則)

以上の運営規程は、2010 年 8 月 1 日から施行する。

「大阪府立大学・元気！活き生きロールモデルバンク」運用規程

(目的)

１．若手理系女性研究者及び理系を選択する女子学生が、手本となる女性（ロールモデル）から経験談や助言を得ることにより、理系女性として将来活躍するための大きな力とすることを目的として、「大阪府立大学・元気！活き生きロールモデルバンク」（以下、「ロールモデルバンク」という）を女性研究者支援センター内に創設する。

（ロールモデル対象者）

２．ロールモデルは、理系分野において、下記のいずれかの経験をもつ者とする。

①リーダー・管理職としての活躍
②資格を有し、それを活かした活躍
③自分の得意分野や専門分野での活躍
④女性が少ない分野での活躍
⑤仕事と家庭の両立支援制度（出産・育児・介護など）の活用により活躍
⑥再雇用制度などの活用により職場復帰して活躍

（ロールモデルの選考）

３．ロールモデルバンクに登録するロールモデルは、本学研究者・本学卒業生（旧大阪女子大学、旧大阪看護大学を含む）とする。

本学以外の研究者、卒業生でも、女性研究者支援センター長がロールモデルバンクに登録するに相応しいと判断し、「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム運営委員会が認めた場合には、ロールモデルとすることができる。

ロールモデルの選考は、本人からの申し出あるいは他薦(本人の了解を必須とする)に基づき、女性研究者支援センター長が妥当と認めたものとする。

（ロールモデルバンク登録者の役割）

４．ロールモデルが登録後に果たす役割については、別紙１　ロールモデル登録様式「Ｖ関わり方」により登録した内容とする。ロールモデルは、本人が登録した役割について、支援センターの求めに応じて協力することが求められる。しかし、登録した役割であっても、個別の事情に応じて辞退することは可能である。

（ロールモデルバンク登録項目の公開）

５．ロールモデルが登録した内容を公開する場合は、別紙１　ロールモデル登録様式「Ｉ．基礎情報」「Ⅱ．連絡先」において、ロールモデルが公開可とした項目だけに限る。ただし、ホームページやニューズレターなど一般に公開するものに情報を記載する場合は、その都度改めてロールモデルに公開する項目を確認し、承認を受けた上で、公開するものとする。

(守秘義務)

６．ロールモデルバンク登録者の個人情報は、本人の意向に基づかない限り、守秘されねばならず、またロールモデルバンクの目的以外に利用されてはならない。

(附則)

この規程は 2010 年 8 月 27 日から施行する。

別紙１　ロールモデル登録様式

Ⅰ．基礎情報	情報公開選択 （◎は、必ず公開）	
氏名	◎	
生年月日	可　・　不可	明治　大正　　昭和　　年　　月　　日
出身大学・学部・院	◎	
最終学歴卒年	◎	
資格	◎	
職業	◎	
勤務先	◎	
職階	◎	

Ⅱ．連絡先

	公開選択	
住所	可　・　不可	〒
TEL	可　・　不可	（　　）　　－
FAX	可　・　不可	（　　）　　－
Eメールアドレス	可　・　不可	

Ⅲ．　入力方法（いずれかに〇をつけて下さい）

1．ご自分で、支援センターHPから入力　⇒　下記に記入せず、この紙をご返送下さい。
HP は作成中です。入力可能になったら
御連絡しますので、しばらくお待ち下さい。

2．下記に記載　⇒　Ⅳ以下に記入し、ご返送下さい。裏面にも記載欄があります。

Ⅳ．ロールモデル対象項目

対象内容（あてはまるもの全てに〇記入）	
リーダー・管理職経験	
資格を有し、それを職務に活かした経験	
自分の得意分野や専門分野での活躍	
女性が少ない分野での活躍	
仕事と家庭の両立支援制度（出産・育児・介護など）の活用により活躍	
再雇用制度などの活用により職場復帰した経験	

Ⅴ. 関わり方 （可能なものに〇記入 ）			
若い世代へのﾒｯｾｰｼﾞ	HP 掲載。200 字		〇必須
キャリア紹介	執筆(500 字程度)		〇必須
	インタビュー		
	職場訪問	学生対象	
キャリアパス構築 ・サイエンスカフェ：少人数の気さくな懇親会 ・メンター：研究および研究生活に関するアドバイザー	講演	学生対象	
	サイエンスカフェ	学生対象・少人数	
	メンター	若手研究者・院生	
	国際セミナー(講義)	院生対象	
公開セミナー	講演	一般対象	
裾野拡大	講演・講義	中学生対象	
	講演・講義	小学生対象	
	講演・講義	高校生対象	
	実験等	小・中・高生対象	

★ 内容を年次報告書に掲載させていただきます。

Ⅵ. 顔写真の公開について　1. 可　⇒電子ファイルかプリントをセンターにご提供お願いします。

2. 不可

Ⅶ. 自己 PR （職務経歴、職務内容など自由にお書きください。非公開）

御協力ありがとうございました。

女性研究者支援センター「女性の健康相談窓口」運営規程

(設置目的)

１．　本学の女性を支援するため、女性研究者支援センターに「女性の健康相談窓口」を設置する。

(対象者)

２．　「女性の健康相談窓口」の対象者は、女性教職員(本学で雇用されている者)および女子学生(本学に学籍を置く者)とする。

(対応者)

３．　「女性の健康相談窓口」の対応者は、女性研究者支援センターが雇用する保健師・助産師等の専門家とする。相談対応者は相談内容に応じ、相談者の了解の下、女性研究者支援センターのコーディネーター、教員などの他の専門家と連携して相談にあたる。

(相談内容)

４．　対応者は、本学のキャンパスを定期的に巡視し、また予約により個別に、下記の相談に応ずる。

- 妊娠・出産・育児と仕事・勉学の両立について
- その他、職場・研究環境と健康に関わる問題について

(巡視および個別相談の開設時間)

５．　巡視および個別相談の時間は、センター長が別に定める。

(守秘義務)

６．　相談業務に携わって相談者の個人情報を知り得た者は、相談者本人の了解なく、それを他に漏らしてはならない。

(報告義務)

７．　相談対応者は業務内容(相談内容を含む。)を、個人情報の守秘に十分に留意したうえで、コーディネーターに月ごとに報告しなければならない。その様式は、センター長が別に定める。

附則

この運営規程は、2010 年 11 月 1 日から施行する。

「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム
理系女子大学院生への表彰およびインセンティブ付与実施要領

（目的）
第１条　女性研究者支援センターが主催する国際セミナーにおいて、理系女子大学院生の優秀者を表彰し、海外または国内で開催される学会等の参加のための旅費等の補助をインセンティブとして付与することにより、将来を担う優れた若手理系女性研究者の育成等に資することを目的とする。

（対象者）
第２条　本学に所属する、工学研究科、生命環境科学研究科、理学系研究科（以下、「理系」という。）の女子大学院生、および生命環境科学部獣医学科の女子５、６年生を対象とする。

（審査委員会の設置）
第３条　理系女子大学院生の優秀者選考を行うために審査委員会を設ける。
１　審査委員会は、「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム運営委員会（以下、「運営委員会」という。）の運営委員と、運営委員が推薦する研究者（各理系研究科から１名以上）により組織する。
２　審査委員会は、審査委員長が必要に応じて招集し、その議長を務める。
３　審査委員長は、運営委員会の運営委員の中から互選により選出され、プログラム運営委員会の承認を得る。
４　副審査委員長は、審査委員長が指名し、審査委員長に事故があるときは審査委員長の職務を代行する。

（審査の方法と基準）
第４条　審査の方法と基準については、審査委員会が別途定める。

（表彰およびインセンティブ）
第５条　表彰およびインセンティブについては次のとおりとする。
（１）　最優秀者　１名　海外での会議等の旅費および参加費の補助として上限額１５万円（旅費と参加費の合計が１５万円以下の場合はその額）
（２）　優秀者　　５名　国内での会議等の旅費および参加費の補助として上限額各５万円（旅費と参加費の合計が５万円以下の場合はその額）
２　インセンティブは、表彰を行った翌年度に支給する。

附　則
この要領は、平成２２年１２月１０日から施行する。

大阪府立大学「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム
外部評価委員会運営要領

（目的）

第1条　科学技術振興調整費大阪府立大学採択プログラム実施要綱第９条２項に基づき、大阪府立大学「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」プログラム外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の運営に関して、細目を定めるものである。

（任務）

第2条　外部評価委員会は、単年度ごとの業務の実績に関する評価を行うとともに、業務にかかる助言を行う。

（組織）

第3条　外部評価委員会は、４名以内の委員をもって組織し、その任期を本プログラムの終了年度までとする。

２　委員は女性研究者支援システム改革の業務に関し識見を有するものの内から、プログラム・オフィサーが委嘱する。

３　外部評価委員会には委員長を置く。委員長は外部評価委員の互選によるものとする。

（委員会の開催）

第4条　外部評価委員会は年度ごとに１回の評価を行う。

２　委員長は外部評価委員会を招集し、その議長となる。

３　評価は原則として、書面をもって行なう。

４　議決を要する事項については、出席委員の過半数で決する。可否同数のときは、議長の決するところとする。

５　議決を要する事項について、外部評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって評決をなし、又は他の委員に評決を委任することができるものとし、この場合には出席したものとみなす。

（委員以外の出席）

第5条　委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を外部評価委員会に出席させ、意見を聞くことができる。

（庶務）

第6条　外部評価委員会の庶務は女性研究者支援センターが行う。

(その他)

第7条　この要領に定めるもののほか、外部評価委員会の運営に関し必要な事項は、外部評価委員会が別に定める。

附則

この要領は、平成２２年１２月１７日より施行する。

報告書名　平成２２年度科学技術振興調整費　女性研究者支援モデル育成
大阪府立大学「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」
平成２２年度　事業報告書
発 行 日　平成２３年３月３１日
発　　行　公立大学法人　大阪府立大学

連 絡 先　〒599-8531　大阪府堺市中区学園町１－１
大阪府立大学　中百舌鳥キャンパス　Ｂ１６棟
女性研究者支援センター
TEL・FAX　（０７２）２５４－９８５６
E-mail　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
ＵＲＬ　http://www.opu-genki.jp/